

**Nways AIS/MAS/MRS/MSS**



**Nways**  
**マルチプロトコル/アクセス・サービス製品**  
**構成プログラム 使用者の手引き**



**Nways AIS/MAS/MRS/MSS**



**Nways**  
**マルチプロトコル/アクセス・サービス製品**  
**構成プログラム 使用者の手引き**

お願い

本書および本書に記載されている製品をご使用になる前に、 iiiページの『特記事項』を必ずお読みください。

この版は、これに代わる版が出版されるまで、IBM Nways アクセス・インテグレーター・サービス、マルチプロトコル・アクセス・サービス、マルチプロトコル・ルーティング・サービス、マルチプロトコル・スイッチ・サービス、およびマルチプロトコル・スイッチ・サービス・クライアントのバージョン 3.3、IBM Nways マルチプロトコル・アクセス・サービスのバージョン 3.3、IBM Nways マルチプロトコル・ルーティング・サービスのバージョン 3.3、IBM Nways マルチプロトコル・スイッチ・サービスのバージョン 2.2、および MSS ファミリー・クライアントのバージョン 2.2、ならびにそれ以降のリリースに適用されます。

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.co.jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。（URL は、変更になる場合があります）

原典： GC30-3830-06  
Nways AIS/MAS/MRS/MSS  
Configuration Program User's Guide for  
Nways Multiprotocol and Access Services Products

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 1999. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 1999

---

## 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31

AP事業所

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

本書において解説されているライセンス・プログラムおよびそのライセンス・プログラム資料は、「IBM プログラム使用契約書」の契約条件にもとづいて弊社が提供するものです。

本書は、プロダクション使用を目的としたものでなく、いかなる種類の保証も含まれていません。このため、商用および特定の目的への適合性の保証を含め、すべての保証に対し本書は関与しません。

---

## 商標

以下の用語は、米国またはその他の国における IBM Corporation の商標です。

AIX	Nways	RS/6000
AIX/6000	Operating System/2	SystemView
NetView	OS/2	

UNIX は X/Open Company Limited がライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows NT, および Windows 95 のロゴは Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および Pentium は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

その他の社名、製品名、およびサービス名は他社の商標またはサービス名です。

---

## 本書について

本書は、ユーザーのネットワークに合うように Nways 装置を構成するために、各種のプラットフォームで構成プログラムを導入して使用方法を説明しています。

本書は、ネットワーキングの概念について理解していることを前提としています。

---

## 本書の対象読者

本書は、構成プログラムを使用して Nways 装置を構成する方を対象としています。

---

## 本書の構成

本書は、以下の章から構成されています。

- 1ページの『第1章 構成プログラムの入手と導入』では、IBM Nways アクセス・インテグレーター・サービス、マルチプロトコル・アクセス・サービス、マルチプロトコル・ルーティング・サービス、マルチプロトコル・スイッチ・サービス、およびマルチプロトコル・スイッチ・サービス・クライアント構成プログラムの導入要件、および構成プログラムの導入方法について説明しています。
- 7ページの『第2章 構成プログラムの開始』では、構成プログラムの開始方法、およびいくつかの操作上の考慮事項について説明しています。
- 13ページの『第3章 構成プログラムの使用法』では、構成プログラムの使用方法、そのナビゲーション・フィーチャーの一部、および構成プロセスの概要を説明しています。





# 目次

特記事項 . . . . .	iii
商標 . . . . .	iii
本書について . . . . .	v
本書の対象読者 . . . . .	v
本書の構成 . . . . .	v
構成プログラムのフィーチャー . . . . .	ix
資料の発注情報 . . . . .	xi
ソフトコピー情報の入手方法 . . . . .	xi
システム・ライブラリー加入サービス . . . . .	xi
本版の変更の概要 . . . . .	xiii
本書の変更内容 . . . . .	xiii
旧版からの構成プログラムの変更箇所 . . . . .	xiii
<b>第1章 構成プログラムの入手と導入</b> . . . . .	1
構成プログラムのハードウェアおよびソフトウェア要件 . . . . .	1
構成プログラムを電子的に入手する方法 . . . . .	2
構成プログラムの導入と情報テーブルの開始 . . . . .	3
構成プログラムの導入 . . . . .	4
AIX での導入 . . . . .	4
Windows での導入 . . . . .	5
OS/2 での導入 . . . . .	5
<b>第2章 構成プログラムの開始</b> . . . . .	7
AIX 上での構成プログラムの開始 . . . . .	7
AIX NetView/6000 による構成プログラムの開始 . . . . .	7
Windows 上での構成プログラムの開始 . . . . .	8
OS/2 での構成プログラムの開始 . . . . .	8
構成プログラムの開始後 . . . . .	9
以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行 . . . . .	9
構成データベース・ファイルまたは構成記憶域ファイルの作成 . . . . .	9
構成データベース・ファイルを構成保管形式ファイルに変換 . . . . .	9
ELAN タイプ・リンク値ファイルの旧リリースから MSS V1 R2.2 への変換 . . . . .	10
CSF 形式の構成ファイルを最新のリリースに変換する . . . . .	11
<b>第3章 構成プログラムの使用法</b> . . . . .	13
構成プログラムを使用する前に . . . . .	13
ナビゲーション・ウィンドウと構成ウィンドウの概要 . . . . .	13
ナビゲーション・ウィンドウの使用 . . . . .	14
構成ウィンドウの使用 . . . . .	17
構成プログラムのナビゲート . . . . .	19
マウスの使用 . . . . .	20
キーボードの使用 . . . . .	20
リスト内の複数の項目の選択 . . . . .	22
構成メニューの使用 . . . . .	22
構成プログラムとルーター間の通信の設定 . . . . .	24
ルーターのセットアップ . . . . .	24

構成プログラムのセットアップ . . . . .	25
新規ルーターの構成 . . . . .	26
既存の構成の変更 . . . . .	26
コマンド行機能の使用 . . . . .	27
CFGARGS ファイルの例 . . . . .	27
Config および Headless コマンドの指定 . . . . .	28
ASCII ファイルの作成および使用 . . . . .	35
ASCII 機能の概要 . . . . .	35
ASCII ファイルの作成 . . . . .	36
ASCII ファイルへの注釈の追加 . . . . .	36
ASCII ファイルの読み取り . . . . .	37
ASCII からバイナリーへの変換 . . . . .	38
バイナリーから ASCII への変換 . . . . .	38
ASCII ファイルの解釈 . . . . .	38
コマンド行機能を使用した ASCII ファイルの処理 . . . . .	42
構成テンプレートとして ASCII ファイルを使用する . . . . .	44
構成プログラムが ASCII ファイルの妥当性を検査する方法の概要 . . . . .	45
構成プログラムの問題の診断 . . . . .	46
構成プログラムの除去 . . . . .	46
索引 . . . . .	49

---

## 構成プログラムのフィーチャー

構成プログラムでは、ポイント・アンド・クリック・インターフェースを使用して、各種のモデルの装置のための構成を作成することができます。このインターフェースを使用することにより、コマンド行インターフェースを使用するよりも容易に以下の作業を実施することができます。

- 構成を後で完成するために保管しておく。
- 装置から既存の構成を検索し、別の装置を構成するためにその構成を更新するか、テンプレートとして使用する。
- 既存の構成を別の装置のためのテンプレートとして使用する。
- 複数プロトコルの構成。(プロトコル間に依存関係がない限り、それらを任意の順序で構成することができます。)
- すでに作成されている構成を現行形式にアップグレードする。たとえば、構成プログラムの急バージョンで作成された構成を、現行構成プログラム リリースにアップグレードすることができます。
- 構成が妥当であるかどうかを、その構成を装置にロードする前に検査する。
- 構成作業に関する動的ヘルプ情報を表示する、ガイド構成の使用
- パネルおよびパラメーターについてコンテキストに依存したヘルプを使用して、必要に応じてさらに情報を入手する。
- 構成をバックアップとして保管するか、同じルーターに対して複数のバージョンを保管する。
- コマンド行機能を使用して、構成の読み取り、書き込み、送信、検索など多くの操作を自動化する。
- ASCII 形式の構成ファイルの作成、編集、および読み取り



---

## 資料の発注情報

---

### ソフトコピー情報の入手方法

IBM ネットワーキング・システム・ソフトコピー・コレクション・キット で、IBM 2210、IBM 2212、IBM 2216、および IBM 8210 資料の多くについての Softcopy BookManager READ ライブラリー情報が入手可能です。CD-ROM を個別に発注する場合は、資料番号 SK2T-6012 を指定してください。3480 カートリッジを個別に発注する場合は、資料番号 SK2T-6013 を指定してください。

弊社営業担当員を通じて、IBM ネットワーキング・システム・ソフトコピー・コレクション・キット、製品番号 5636-PUB の年間購読が利用できます。CD-ROM 形式の場合は、発注のフィーチャー・コードは 2003、媒体コードは 5003 です。3480 カートリッジ形式の場合は、発注のフィーチャー・コードは 2004、媒体コードは 5004 です。

2210 関連の資料を収録した CD-ROM を発注する場合は、資料番号 SK2T-0404 を指定してください。

2212 関連の資料を収録した CD-ROM を発注する場合は、資料番号 SK2T-0435 を指定してください。

2216 およびネットワーク・ユーティリティー関連の資料を収録した CD-ROM を発注する場合は、資料番号 SK2T-0405 を指定してください。

8210 関連の資料を収録した CD-ROM を発注する場合は、資料番号 SK2T-0425 を指定してください。

MSS クライアント関連の資料を収録した CD-ROM を発注する場合は、資料番号 SK2T-0429 を指定してください。

---

### システム・ライブラリー加入サービス

IBM 2210 の資料は、システム・ライブラリー加入サービス (SLSS) を通して入手できます。2210 の資料を発注する際には、マシン・タイプ 2210 およびプログラム番号 5801-ARR を指定してください。

IBM 2212 の資料は、システム・ライブラリー加入サービス (SLSS) を通して入手できます。2212 資料を発注する際には、マシン・タイプ 2212 およびプログラム番号 5639-F73 を指定してください。

IBM 2216 の資料は、システム・ライブラリー加入サービス (SLSS) を通して入手できます。2216 の資料を発注する際には、マシン・タイプ 2216 およびプログラム番号 5765-D47 を指定してください。

ネットワーク・ユーティリティーの資料は IBM 2216 の資料に含まれています。

IBM 8210 の資料は、システム・ライブラリー加入サービス (SLSS) を通して入手できます。8210 の資料を発注する際には、マシン・タイプ 8210 およびプログラム番号 5765-368 を指定してください。

---

# 本版の変更の概要

---

## 本書の変更内容

- 導入手順が変更されました。
- 構成ファイルの更新手順が変更されました。
- ナビゲーション手順が変更されました。
- コマンド行機能手順が変更されました。
- 問題診断手順が変更されました。
- 除去手順が変更されました。

技術的な変更および追加は、変更箇所の左側に縦線 (|) を付けて示されます。

---

## 旧版からの構成プログラムの変更箇所

本書の前の版から構成プログラムには以下の変更がありました。

### 構成データベース変換

構成データベース・ファイルを現行構成プログラムによって必要なレベルに移行するための手順が変更されました。詳細については 9 ページの『以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行』を参照してください。

### ガイド構成

プログラムを開始し、構成活動を進めて大きな変更を行うと、構成ヘルプ・ウィンドウが自動的にオープンし、現在の作業項目に関するヘルプ・テキストが表示されます。メニュー・バーの「オプション」選択肢からガイド構成をオフにすることもできます。詳細については 17 ページの『ガイド構成の使用』を参照してください。

### ナビゲーション・ウィンドウ

選択可能項目が変更されて論理的順番に配列されたため、構成活動を進めるにつれてリストを下に降りていくことになります。詳細については 14 ページの『ナビゲーション・ウィンドウの使用』を参照してください。

### 構成ウィンドウ

ウィンドウのフォーマットが変更されました。また、構成ウィンドウに表示されたノートブック・ページをマウスの右ボタンでクリックすると (3 ボタン・マウスの場合は真ん中のボタン)、そのページのフィールドに入力したデータの妥当性がチェックされます。詳細については、17 ページの『構成ウィンドウの使用』を参照してください。

### コマンド行機能

コマンド行機能を使用する手順が変更されました。詳細については 27 ページの『コマンド行機能の使用』を参照してください。

### ウィンドウなし構成ツール (AIX)

AIX 環境については新規コマンドが追加され、グラフィック・ディスプレイを持たない場合においても、コマンド行機能を使用して構成プログラムを操作することができます。詳細については 28 ページの『Config および Headless コマンドの指定』を参照してください。

|

|

|

### 診断情報

構成プログラムで問題が生じた場合の手順が変更されました。詳細については 46ページの『構成プログラムの問題の診断』 を参照してください。

|

### 構成プログラムの取り外し

構成プログラムを取り外すための手順が変更されました。詳細については 46ページの『構成プログラムの除去』 を参照してください。



# 第1章 構成プログラムの入手と導入

この章では、IBM Nways アクセス・インテグレーター・サービス、マルチプロトコル・アクセス・サービス、マルチプロトコル・ルーティング・サービス、マルチプロトコル・スイッチ・サービス、およびマルチプロトコル・スイッチ・サービス・クライアント 構成プログラムを実行するための最小要件およびその入手と導入に関する手順について説明します。次のセクションで構成されています。

- 2ページの『構成プログラムを電子的に入手する方法』
- 3ページの『構成プログラムの導入と情報テーブルの開始』
- 4ページの『構成プログラムの導入』

**重要:** 先に進む前に、README ファイルを読んで、導入手順の要件および変更についての最新の情報を確認してください。

## 構成プログラムのハードウェアおよびソフトウェア要件

表1 は、最小構成プログラム要件をリストしています。

表1. サポートされるオペレーティング・システムに対する構成プログラムの要件

要件	IBM AIX	IBM オペレーティング・システム /2	Microsoft Windows 95 または Windows NT
ワークステーション	RS/6000 モデル 250/410 以上 (最小 80 Mhz の CPU を搭載)	IBM 互換 PC (Intel Pentium 166 MHz 以上のプロセッサを搭載) (2ページの2 を参照)	IBM 互換 PC (Intel Pentium 166 MHz 以上のプロセッサを搭載) (2ページの2 を参照)
RAM (最小)	64 MB	48 MB	48 MB
CD-ROM	yes	yes	yes
空きディスク・スペース	54 MB そのほかに、各構成ファイルごとに 1 ~ 3 MB が必要になります。	37 MB そのほかに、各構成ファイルごとに 1 ~ 3 MB が必要になります。	54 MB そのほかに、各構成ファイルごとに 1 ~ 3 MB が必要になります。
スワッパー・サイズ	N/A	10 MB	N/A
ディスプレイ (最小)	グラフィックス (1024 x 768 x 256 色)	SVGA (1024 x 768 x 256 色)	SVGA (1024 x 768 x 256 色)
マウス	3 ボタン	2 ボタン (注 2ページの3 を参照)	2 ボタン (注 2ページの3 を参照)
ソフトウェア	AIX for RS/6000 V4.1.5 以上	OS/2 3.0 以上	Microsoft Windows 95 または Windows NT

表1. サポートされるオペレーティング・システムに対する構成プログラムの要件 (続き)

要件	IBM AIX	IBM オペレーティング・システム /2	Microsoft Windows 95 または Windows NT
	AIXWindows Environment/6000	IBM TCP/IP OS/2 用プログラム 1.2.1 以上	

注:

1. AIX については、ヘルプにアクセスするためには、AIX Common Desktop environment (X11.dt) が必要です。
2. メモリーの容量が大きく、プロセッサが高速であるほど、プログラムのパフォーマンスは高くなります。
3. 機能的には、3 ボタンのマウスと同等です。
4. 『Single Send または Single Retrieve』機能、あるいは 『Multiple Send または Multiple Retrieve』機能を使用する前に、TCP/IP が **導入済み** であり **稼働中** であることを確認する必要があります。MS Windows プラットフォームでは、TCP/IP が未導入で稼働していないと、構成プログラムは停止します。

AIX バージョンの変換プログラムは特殊なフォントを必要とします。このプログラムが正しく稼働するためには、ディレクトリーのリストに `/usr/lib/X11/fonts/75dpi/` が存在しなければなりません。Xstation のフォント・パスにこのディレクトリーが存在しない場合は、Xstation で次のように入力します。

```
xset fp+ /usr/lib/X11/fonts/75dpi/
```

このコマンドは、Xstation のフォント・パスに変換プログラムのフォント・ディレクトリーを追加します。将来使用するために上記の行を .profile に入れてください。

注: 2212 アクセス・ユーティリティーは変換プログラムを使用しません。

## 構成プログラムを電子的に入手する方法

構成プログラムは、IBM ネットワーキング・テクニカル・サポート・ホーム・ページから入手することができます。以下の手順に従って、構成プログラムをダウンロードしてください。

1. IBM ネットワーキング・ページのアクセス先は次のとおりです。  
**<http://www.networking.ibm.com>**
2. **Support** を **Fast-Path Site-Links** メニューから選択し、Technical Support ページにアクセスします。
3. **Downloads** メニューから製品を選択します。
4. ダウンロードしたい構成プログラムについて希望するコード・レベルを選択します。次のパネルで、パネルの下部の **Files in this Package** ボックスで、希望するファイルを一時ディレクトリーにダウンロードします。(README ファイルを調べてどのバージョンの構成プログラムおよびどのファイルが必要か判別し、ハード・ディスクに十分なスペースがあるか確認します。)
5. 構成プログラムを導入するには、続いて 4ページの『構成プログラムの導入』に進みます。

## 構成プログラムの導入と情報テーブルの開始

構成プログラムは、それぞれが固有のプログラム名、実行可能ファイル名、バージョンおよびリリース番号などを持つ、複数のプラットフォーム上で複数のソフトウェア製品をサポートします。以下の表は構成プログラムの導入または始動を行うときに必要となる製品固有情報をリストしてあります。

たとえば、AIX プラットフォーム上でプログラムのマルチプロトコル・ルーティング・サービスを使用したい場合は、IBM ネットワーキング・ページから表2 (*mrsaix.lpp*) の *aixname* 欄に表示されているファイルをダウンロードし、4ページの『AIX での導入』の指示に従います。

プログラムを開始する準備ができたなら、同じ表 (*/usr/lpp/mrsv33*) の *aixpath* 欄に示されているディレクトリーに移動し、7ページの『AIX 上での構成プログラムの開始』の指示に従います。

表 2. AIX 製品情報

プロダクト名	<i>aixpath</i>	<i>aixname</i>
アクセス・インテグレーター・サービス バージョン 3.3	<i>/usr/lpp/aisv33</i>	<i>aisaix.lpp</i>
マルチプロトコル・アクセス・サービス バージョン 3.3	<i>/usr/lpp/masv33</i>	<i>masaix.lpp</i>
マルチプロトコル・ルーティング・サービス バージョン 3.3	<i>/usr/lpp/mrsv33</i>	<i>mrsaix.lpp</i>
マルチプロトコル・スイッチ・サービス バージョン 1 リリース 2.2	<i>/usr/lpp/mssv1r22</i>	<i>mssv1r22</i>
MSS ファミリー・クライアント バージョン 1 リリース 2.2	<i>/usr/lpp/mssv1r22</i>	<i>mssc1r22</i>

表3 はウィンドウ固有の情報をリストします。このプログラムを Windows プラットフォーム上で使用したい場合に使ってください。

表 3. Windows 製品情報

プロダクト名	<i>winfolder</i>	<i>winprogram</i>	<i>winname</i>
アクセス・インテグレーター・サービス バージョン 3.3	<i>Aisv3.3</i>	<i>AISV3.3</i>	<i>aiswin.exe</i>
マルチプロトコル・アクセス・サービス バージョン 3.3	<i>Masv3.3</i>	<i>MASV3.3</i>	<i>maswin.exe</i>
マルチプロトコル・ルーティング・サービス バージョン 3.3	<i>Mrsv3.3</i>	<i>MRSV3.3</i>	<i>mrswin.exe</i>
マルチプロトコル・スイッチ・サービス バージョン 1 リリース 2.2	<i>Mssv1r2.2</i>	<i>MSSV1R2.2</i>	<i>MSSV1R22.exe</i>
MSS ファミリー・クライアント バージョン 1 リリース 2.2	<i>Mssc1r2.2</i>	<i>MSSCV1R2.2</i>	<i>MSSCV1R22.exe</i>

表4 は OS/2 固有情報をリストします。プログラムを OS/2 プラットフォーム上で使用したい場合に使ってください。

表4. OS/2 製品情報

プロダクト名	os2folder	os2program	os2name
アクセス・インテグレーター・サービス バージョン 3.3	AIS V3.3 Config Programs	AIS V3.3 Config Program	aisos2.cmd
マルチプロトコル・ルーティング・サービス バージョン 3.3	MAS V3.3 Config Programs	MAS V3.3 Config Program	masos2.cmd
マルチプロトコル・アクセス・サービス バージョン 3.3	MRS V3.3 Config Programs	MRS V3.3 Config Program	mrsos2.cmd
マルチプロトコル・スイッチ・サービス バージョン 1 リリース 2.2	MSS V1 R2.2 Config Programs	MSS V1 R2.2 Config Program	os2inst.cmd
MSS ファミリー・クライアント バージョン 1 リリース 2.2	MSSC V1 R2.2 Config Programs	MSSC V1 R2.2 Config Program	os2inst.cmd

## 構成プログラムの導入

適切な CD-ROM を入手したか、または適切なファイルを IBM ネットワーキング・ホーム・ページからダウンロードした後は、構成プログラムの導入に使用する手順は、プログラムを実行するオペレーティング・システムによって異なります。『AIX での導入』, 5ページの『Windows での導入』, および 5ページの『OS/2 での導入』は、ユーザーのオペレーティング・システムに基づいて構成プログラムの導入手順を説明します。

構成プログラムを導入する前に、導入しようとしているディレクトリーに対して書き込みアクセスが可能であるかどうか確認してください。導入時には、導入処理によってプログラム・ファイルがディレクトリーに書き込まれ、構成プログラムの実行時には、情報がディレクトリーに書き込まれます。さらに詳しい情報は、該当する README ファイルを参照してください。

## AIX での導入

1. 『ルート』 ユーザーとしてログオンしていることを確認します。(whoami コマンドは、コマンド・プロンプトでルートを示します。) そうでない場合は、**su root** を入力します。
2. CD-ROM から導入する場合は、**/cdrom** ディレクトリーがない場合にはそれを作成してから適切な構成プログラム CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM に装てんします。

```
mount -v cdrfs -r ' ' /dev/cd0 /cdrom
```

3. INSTALLP ファイル (*aixname*-- 具体的名前については 3ページの表2 を参照) が存在しているディレクトリーに移動します。CD-ROM 上では、**/cdrom/config/aix**

ディレクトリーにあります。*aixname* ファイルを IBM ネットワーキング・ホーム・ページからダウンロードした場合は、ファイルが存在しているディレクトリーに移動します。

4. SMIT を実行し、以下のように AIX 4.1.5 または AIX 4.2 手順を実施します。

#### AIX 4.1.5 手順:

- a. **Software Installation and Maintenance** を選択します。
- b. **Install and Update Software** を選択します。
- c. **Install/Update Selectable Software (Custom Install)** を選択します。
- d. **Install Software Products at Latest Level** を選択します。
- e. **Install New Software Products at Latest Level** を選択します。

#### AIX 4.2 手順:

- a. **Software Installation and Maintenance** を選択します。
- b. **Install and Update Software** を選択します。
- c. **Install and Update from Latest Available Software** を選択します。
- d. **Input device/directory for software.** を選択します。
  - a. INSTALLP ファイルの完全修飾ファイル名 (*aixname*--特定名については、3ページの表2 を参照) を、CD-ROM **/cdrom/config/aix** ディレクトリーから入力します。
  - b. **PF4** を押してソフトウェアのリストを表示し、導入プログラムを選択します。
  - c. **OK** を選択します。
  - d. **OK** を選択します。
  - e. **Done** を選択します。
  - f. **Cancel** を選択します。
5. CD-ROM から導入する場合は、CD-ROM を取り外します。

```
umount /cdrom
```
6. **exit** を入力して、ルート・ユーザー・セッションを終了します。

## Windows での導入

1. CD-ROM から挿入する場合は、該当する CD-ROM を CD-ROM ドライブに導入します。autoread がオンの場合、導入プログラムが開始され、導入ダイアログを表示します。それ以外の場合は、**/config/win** に変更し、CD-ROM 上でセットアップを実行します。
2. Windows 導入ファイルを IBM ネットワーキング・ページからダウンロードして導入する場合は、ファイルがダウンロードされているディレクトリーに移動し、*winname* プログラム (特定名については 3ページの表3 を参照) を実行してプロダクトを導入します。

## OS/2 での導入

1. OS/2 コマンド・ウィンドウをオープンします。
2. CD-ROM から導入する場合は、CD-ROM の **/config** に移動します。

3. OS/2 導入コマンドを IBM ネットワーキング・ページからダウンロードした後に導入する場合は、ファイルがダウンロードされているディレクトリーに移動します。
4. **os2name** (特定名については 3ページの表3 を参照) を入力し、パネルに表示されるプロンプトにしたがって導入を完了させます。

プログラムは構成プログラム・アイコンを含むフォルダーを作成します。そのフォルダー内には README ファイルのアイコンもあります。

---

## 第2章 構成プログラムの開始

本章は、構成プログラムの開始手順、ならびにプログラムの旧バージョンで作成された構成ファイルをアップグレードする方法を説明します。次のセクションで構成されています。

- 『AIX 上での構成プログラムの開始』
- 『AIX NetView/6000 による構成プログラムの開始』
- 8ページの『Windows 上での構成プログラムの開始』
- 8ページの『OS/2 での構成プログラムの開始』
- 9ページの『構成プログラムの開始後』
- 9ページの『以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行』

---

### AIX 上での構成プログラムの開始

構成プログラムを開始する前に、X-Windows および共通デスクトップ環境がワークステーション上で稼働していなければなりません。

構成プログラムを開始するには、以下の手順で行います。

1. たとえば次のような構成プログラムが含まれるディレクトリーに移動します。

`cd /usr/lpp/aixpath` (特定パスについては、3ページの表2 を参照)

2. `config &` を入力してプログラムをバックグラウンドで開始します。

---

### AIX NetView/6000 による構成プログラムの開始

NetView/6000 が導入されている場合、メニュー・バーから直接に構成プログラムを開始することができます。ネットワークに異なるタイプのルーター (たとえば、2210 および 6611) または異なるバージョンおよびリリースの構成プログラムが含まれている場合、機械に導入されている構成プログラムはどれでも、メニュー・バーから直接開始することができます。

複数の構成プログラムを使用する場合は、必ずそれぞれの構成プログラムを、他の構成プログラムおよび NetView/6000 とは別のサブディレクトリーに入れてください。

メニュー・バーから開始したい各構成プログラムについて、以下のことを行います。

1. `/usr/OV/registration/C` サブディレクトリーに、メニュー・バー選択項目のコードが入っているファイルを作成します。
2. ファイル内のコマンド・ステートメントを、必要な構成プログラムのパスを示すように変更します。
3. そのファイルを、開始する構成プログラムのタイプ、バージョン、およびリリースを示す名前でも保管します。

図1 は、ディレクトリー /usr/lpp/mrsv33 にある構成プログラムを示す、MRSV33 という名前のファイルに入っているコードの例です。メニュー・バー "Tools" の下の行にある C は、メニュー項目 (Navigation Window メニュー・バーの C 構成オプション内の下線文字) のアクセラレーター文字を表します。この文字はアクションのすぐ左に置かれる文字ストリング内にあり、他のメニュー項目と重複してはなりません。

```
/*
** Global Tools
*/
Application "2210 MRS Configuration V3R3"
  Description {
    "2210 MRS Configuration V3R3"
  }
  /*
  ** Tools
  */
  MenuBar "Tools"
  {
    "2210 MRS Config Tool V3.3" _C f.action "cfgtool";
  }
  Action "cfgtool"
  {
    Command "/usr/lpp/mrsv33/config";
  }
}
```

図1. Netview/6000 メニュー・ファイル MRSV33

構成プログラムのすべてのメニュー項目が入っているサブメニューの作成方法など、詳しい情報については、*AIX SystemView NetView/6000 V2R1 プログラマーの手引き*、SC88-7868 を参照してください。

---

## Windows 上での構成プログラムの開始

Windows で構成プログラムを開始するには、以下のように選択します。

**Start | Programs | winfolder | winprogram**

(特定フォルダー名およびプログラム名については、3ページの表3 を参照してください。)

---

## OS/2 での構成プログラムの開始

OS/2 で構成プログラムを開始するには、以下の手順で行います。

1. 構成プログラム *os2folder* フォルダ (特定名については 4ページの表4 を参照) を見つけ、オープンします。
2. 構成プログラム *os2program* アイコン (特定名については 4ページの表4 を参照) をダブルクリックしてプログラムを開始します。構成プログラムのタイトル・ウィンドウが表示されます。



---

## 構成プログラムの開始後

プログラムを開始すると、プログラムは **cfg.ini** ファイルで定義されているオプションを使用します。このファイルが構成プログラムのディレクトリーに存在しない場合、構成プログラムは省略時オプションを使用して、新しい **cfg.ini** ファイルを作成します。オプションを変更するときは、構成プログラムメニュー・バーで **Options** を選択します。変更可能なオプションについては、16ページの『構成プログラムのオプションの変更』を参照してください。

---

## 以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行

このバージョンの構成プログラムは、(以前のバージョンの構成プログラムによって作成された) **.cdb** ファイル拡張子が付いた構成データベース・ファイルを使用することができません。新しいバージョン形式 (**.csf** ファイル拡張子) にアップグレードする必要があります。既存の構成の唯一のコピーがルーター内または 2 進数形式 (**.cfg**) ファイル内にある場合は、移行プロセスを開始する前に、既存の構成を作成した構成プログラムのバージョンを使用して、『構成データベース・ファイルまたは構成記憶域ファイルの作成』に説明されるように、構成データベース (**.cdb**) ファイルを作成してから、そのファイルを、『構成データベース・ファイルを構成保管形式ファイルに変換』で説明されるように、**.csf** 形式に変換する必要があります。

構成データベース・ファイルが旧バージョンの構成プログラムによって作成されたが、すでに **.csf** ファイル拡張子をもっている場合には、11ページの『CSF 形式の構成ファイルを最新のリリースに変換する』に進んでください。

## 構成データベース・ファイルまたは構成記憶域ファイルの作成

旧バージョンの構成プログラムを使用して、構成データベース・ファイルを作成するには、次のようにします。

1. 旧バージョンの構成プログラムを開始します。
2. **Configure | Read router configuration** を選択して、既存の構成を構成プログラムに読み込みます。  
既存の構成をプログラムに読み込む別の方法は、**Configure | Communications | Single | Retrieve** を選択することです。
3. **Configure | Save configuration** または **Save configuration as** のいずれかを選択します。
4. **.cdb** ファイル拡張子 (旧形式) または **.csf** ファイル拡張子 (新形式) を付けたファイルに構成を保管します。
5. 付けて『構成データベース・ファイルを構成保管形式ファイルに変換』に進み、**.cdb** ファイルに含まれる構成を **.csf** ファイルに変換します。

## 構成データベース・ファイルを構成保管形式ファイルに変換

以前のバージョンの構成プログラムからのすべての構成データベース・ファイル (**.cdb**) は、構成保管形式 (**.csf**) に変換する必要があります。構成プログラムを使用してこれを行うことができます。変換プログラムはダイアログを提供するので、そこ

でどの構成データベース・ファイルを変換したいかを指定します。変換プログラムを使用するには、以下のステップに従ってください。

1. 変換プログラムを開始します。

#### AIX

- a. 構成プログラム (`/usr/lpp/aixpath`) が入っているディレクトリーに変更します。 - 特定パス名については 3 ページの表2 を参照。
- b. **converter** と入力します。

注: 変換プログラム用の AIX フォント要件については、1 ページの『構成プログラムのハードウェアおよびソフトウェア要件』を参照してください。

#### Windows 95 または Windows NT

以下を選択します。

Start | Programs | *winfolder* | Conversion tool

(特定フォルダー名については 3 ページの表3 を参照してください。)

#### OS/2

- a. 構成プログラム・フォルダー (*os2folder* - 配置するフォルダー名については 4 ページの表4 を参照) を見つけ、オープンします。
  - b. 変換プログラム・アイコン (**Converter Program**) をダブルクリックし、変換プログラムを開始します。
2. データベース・ファイルが入っているディレクトリーを、*Directory containing CDB/TLV* フィールドに入力します。
  3. ラジオ・ボタンを使用して、構成データベース内のすべての構成または選択した構成のみのどちらを変換したいか指定します。選択した構成のみを変換する場合は、続けてステップ 4 に進み、それ以外の場合は、ステップ 5 に進みます。
  4. 変換したい構成を、*Convert Configs* リストから選択します。
  5. 新規構成ファイル (**.csf** 形式) を入れるディレクトリーを指定します。
  6. **Convert!** を選択します。そのとき、プログラムは指定された構成を、Configuration Storage Directory (CSD) 内の個別の構成ファイルに変換します。
  7. 11 ページの『CSF 形式の構成ファイルを最新のリリースに変換する』の手順に従って、これらの新規 **.csf** ファイルをアップグレードして、最新リリースの構成プログラムと互換性を持つようにします。

## ELAN タイプ・リンク値ファイルの旧リリースから MSS V1 R2.2 への変換

ELAN タイプ・リンク値定義ファイル (`cfg.tlv`) には、標準 TLV 定義に対するユーザー変更が含まれます。このファイルは、標準定義が旧リリースにおいて変更された場合にのみ移行が必要となります。これを行うには、変換プログラムを使用することができます。変換したい ELAN タイプ・リンク値定義 (`cfg.tlv`) を指定するためのダイアログが提供されます。変換プログラムを使用するには、以下のステップに従ってください。

1. 移行元のリリースに関する ELAN タイプ・リンク値定義ファイル (cfg.tlv) を見つけます。このファイルはプログラム導入ディレクトリー内にあります。
2. 変換プログラムを開始します。

#### AIX

- a. 構成プログラム (/usr/lpp/aixpath) が入っているディレクトリーに変更します。 - 特定パス名については 3ページの表2 を参照。
- b. **converter** と入力します。

注: 変換プログラム用の AIX フォント要件については、1ページの『構成プログラムのハードウェアおよびソフトウェア要件』を参照してください。

#### Windows 95 または Windows NT

以下を選択します。

Start | Programs | winfolder | Conversion tool

(特定フォルダー名については 3ページの表3 を参照してください。)

#### OS/2

- a. 構成プログラム・フォルダー (os2folder - 配置するフォルダー名については 4ページの表4 を参照) を見つけ、オープンします。
  - b. 変換プログラム・アイコン (**Converter Program**) をダブルクリックし、変換プログラムを開始します。
3. TLV ファイルが入っているディレクトリーを、 *Directory containing CDB/TLV* フィールドに入力します。
  4. *Convert Configs* リストを使用して、変換したい TLV ファイルを選択します。
  5. 新しい TLV ファイルを入れるディレクトリーを指定します。このディレクトリーは、現行リリース・プログラム導入ディレクトリーでなければなりません。
  6. **Convert!** を選択します。プログラムは指定された TLV ファイルを変換します。
  7. 『CSF 形式の構成ファイルを最新のリリースに変換する』の手順に従って、これらの新規 .csf ファイルをアップグレードして、最新リリースの構成プログラムと互換性を持つようにします。

## CSF 形式の構成ファイルを最新のリリースに変換する

すでに .csf 形式の構成ファイルを、現行の構成プログラムによって使えるように変換するには、以下のようになります。

1. 最新バージョンの構成プログラムを開始します。
2. **Configure | Open configuration** を選択します。 *Available Configurations* から構成を選択します。
3. **Open** を選択します。構成プログラムは、構成を現行バージョンにアップグレードしたいか尋ねます。
4. **Configure | Save configuration as** を選択して、構成を新しい名前の付いた新規ファイルに保管します。新しい名前の付いた構成を保管することにより、将来使用するような場合のために既存の構成ファイルのコピーを保持することができます。



---

## 第3章 構成プログラムの使用法

本章では構成プログラムのナビゲーション・フィーチャーおよび構成プログラムの使用法について説明し、また問題の診断を支援します。以下の各セクションから構成されています。

- 『構成プログラムを使用する前に』
- 『ナビゲーション・ウィンドウと構成ウィンドウの概要』
- 19ページの『構成プログラムのナビゲート』
- 22ページの『構成メニューの使用』
- 24ページの『構成プログラムとルーター間の通信の設定』
- 27ページの『コマンド行機能の使用』
- 35ページの『ASCII ファイルの作成および使用』
- 46ページの『構成プログラムの問題の診断』
- 46ページの『構成プログラムの除去』

---

### 構成プログラムを使用する前に

構成プログラムを使用してルーターの構成を作成する前に、構成プログラムを導入したディレクトリーまたは CD-ROM に入っている README ファイルをお読みください。README ファイルには、構成プログラムの使用に関する最新の制約事項が書かれています。

**重要:** 使用する構成プログラムは、構成している Nways 装置に常駐するソフトウェアに適合している必要があります。受け取ったソフトウェアを、2ページの『構成プログラムを電子的に入手する方法』で名前を示した Web サイトで入手可能なファイルと比較することにより、最新のソフトウェア・レベルを持っているか確認してください。

---

### ナビゲーション・ウィンドウと構成ウィンドウの概要

構成プログラムを最初に開始すると、3つのウィンドウが表示されます。

著作権表示 (Copyright Notice) ウィンドウ

ナビゲーション (Navigation) ウィンドウ

構成 (Configuration) ウィンドウ

著作権表示ウィンドウで **OK** を選択してウィンドウをクローズします。プログラムは、15ページの図2 および 19ページの図4 に示されているような2つのウィンドウを表示します。

左側のウィンドウがナビゲーション・ウィンドウで、右側のウィンドウが構成ウィンドウです。

ルーターを構成するには、ナビゲーション・ウィンドウで項目を選択し、次に選択した各項目の詳細を関連する構成ウィンドウで指定します。項目に関する詳細の入力が終わったら、ナビゲーション・ウィンドウから構成する新しい項目を選択します。24ページの『ルーターのセットアップ』は、新規ルーターを構成するための、または既存構成を変更するための一般的なステップを示しています。25ページの『構成プログラムのセットアップ』は、ルーターを通信を行うための構成プログラムのセットアップのための一般的なステップを示しています。

## ナビゲーション・ウィンドウの使用

ナビゲーション・ウィンドウは 15ページの図2 に示されています。以下が含まれます。

- タイトル・バー
- メニュー・バー
- 構成記述域
- フォルダー (フォルダー・アイコンで示される) のスクロール可能リスト。これには構成可能なフィーチャーとプロトコルが含まれます。フォルダーとその内容は論理的に配列されており、構成作業はウィンドウの一番上から開始して下に向かって行うことができます。

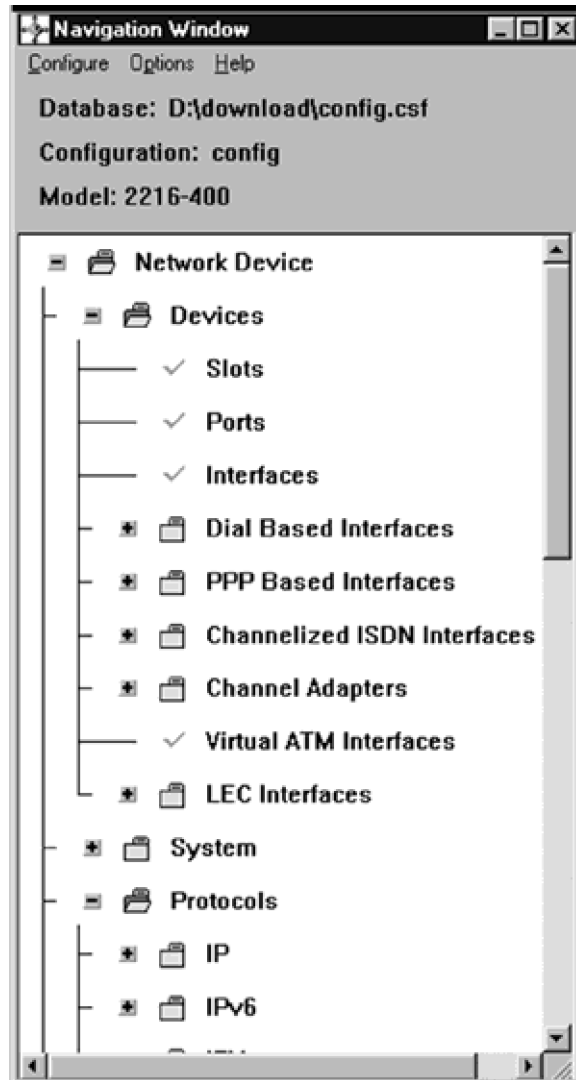


図2. 最初のナビゲーション・ウィンドウ

ナビゲーション・ウィンドウ内の項目を選択した場合でガイド構成がアクティブ (デフォルト設定値) のときは、プログラムはユーザーが新しい項目を選択すると適切な構成支援情報を表示します。詳細については、17ページの『ガイド構成の使用』を参照してください。

エラーが生じた場合、あるいは現行構成に対して必要な情報を指定していない場合には、関連項目の隣に疑問符 (?) が表示されます。構成情報が正しい場合は、チェック・マーク (✓) が項目の隣に表示されます。これらの標識の例については、18ページの図3 を参照してください。

ナビゲーション・ウィンドウのメニュー・バーには、以下のオプションが含まれています。

- 構成 (Configure)
- オプション (Options)
- ヘルプ (Help)

メニュー・バーの下にある区域は、構成記述域です。ここには、以下の情報が表示されます。

- 構成が入っているパスと名前。省略時のパスは、構成プログラムを導入したディレクトリーで、省略時のファイル名は **config.csf** です。
- 現行構成のファイル名 (省略時値は **config** です)
- 構成するルーターのモデル、および (該当する場合) アダプターのタイプ (省略時値はオプション・メニューに設定されています)

ナビゲーション・ウィンドウでは、フォルダーの隣にあるプラス (+) アイコンをクリックするか、フォルダー自身をダブルクリックして、フォルダーの内容を表示することができます。フォルダーを選択してからフォルダー上でマウス・ボタン 2 (真ん中のマウス・ボタン、または 2-ボタンのマウスの場合には右マウス・ボタン) を押すことによって、実行するアクションを選択することもできます。これによって次のことを行うことのできるポップアップ・メニューが表示されます。

- ナビゲーション・ウィンドウ内の項目を最大に拡大する
- フォルダー内の項目を拡大する。
- ユーザーが選択した構成項目の活動記録メニューを表示する。活動記録メニューからは、以前に選択した構成項目にアクセスすることができます。OS/2、Windows 3.x、および AIX では、活動記録メニュー項目によって表示されたサブメニューから項目を選択するまで、マウス・ボタン 2 (中央のマウス・ボタン、または 2 ボタン・マウスの場合は右側のマウス・ボタン) を押したままにします。(Windows 95 の場合は、マウス・ボタン 2 を押したまま保持する必要はありません。) ポップアップ・メニューと同様、どの項目からでも、活動記録メニューを呼び出すことができます。
- 選択項目にエラーが含まれていないか妥当性検査をする。ナビゲーション・ウィンドウは、隣に大きい黄色の疑問符を表示してその項目にエラーがあることを示します。妥当性検査機能は、構成エラーがある場合、あるいは選択した項目に基づいた正しい値が必須フィールドに指定されていない場合は、メッセージを表示します。フォルダーについて妥当性検査を使用すると、そのフォルダー内のすべての項目に関する妥当性検査メッセージが標示されます。

エラーを訂正するか必要なフィールドに記入をして、エラーのあったパネルを終了すると、プログラムは疑問符を消去します。

## 構成プログラムのオプションの変更

Options メニューを使用して、次のものを変更することができます。

- ガイド構成
- カラー (Colors)
- 省略時モデル (Default model)
- 省略時アダプター (Default apapter)
- メッセージ・プロンプト (Message prompting)
- ATM アドレス形式 (ATM Address Format)



**注:**

1. 構成プログラムのマルチプロトコル・アクセス・サービス、マルチプロトコル・スイッチ・サービス、およびマルチプロトコル・スイッチ・サービス・クライアント・バージョンには、省略時アダプターのオプションはありません。
2. 構成プログラムのアクセス・インテグレーター・サービス・バージョンには ATM アドレス形式または省略時アダプターのオプションはありません。

## ガイド構成の使用

構成プログラムには、装置のフィーチャーおよびプロトコルの構成に役立つガイド構成機能があります。ガイド構成は、フィーチャーまたはプロトコルについて構成活動を段階を追ってガイドする基本手順で構成されます。連続的なガイド構成支援は、デフォルト設定でアクティブになっています。これをオフまたはオンに切り替えるには、ナビゲーション・ウィンドウを表示し、Options メニューから **Guided configuration** を選択します。これがオフに設定された場合で、連続的にアクティブにすることなくヘルプ・ウィンドウ内にガイド構成テキストを表示したいときは、**F1** を押します。

**注:**

1. フィーチャーまたはプロトコルを構成する方法は複数ある場合があります。ガイド構成は推奨される手順です。
2. ガイド構成はユーザーが手順中のどこにいるかについては追跡しません。ある手順の中から他のヘルプ情報へリンクをたどった場合は、その手順に戻ったときにはヘルプ・ウィンドウはその手順のはじめに関する情報を表示します。

## 構成ウィンドウの使用

構成ウィンドウを表示するには、ナビゲーション・ウィンドウ内の項目を選択します (18ページの図3 を参照)。

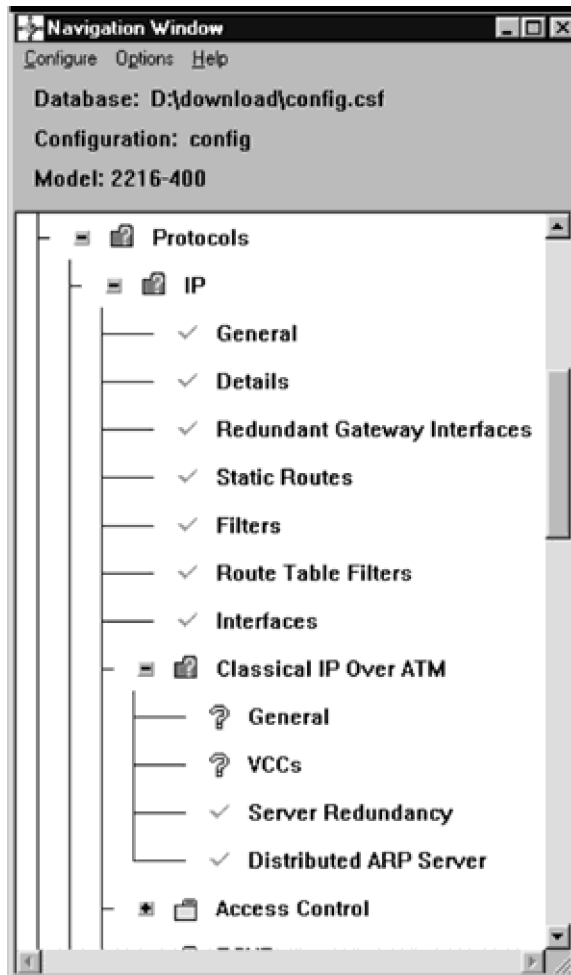


図3. 一般的なナビゲーション・ウィンドウ

プログラムは構成ウィンドウ内に関連構成情報を表示し (19ページの図4 を参照)、選択された項目の名前がそのタイトル・バーに表示されます。構成項目の 1 ページの表示を行うことも、あるいは構成項目の複数ページからなるノートブックとして表示することも可能です。構成ウィンドウの内容と形式は、ナビゲーション・ウィンドウで選択された項目によって異なります。

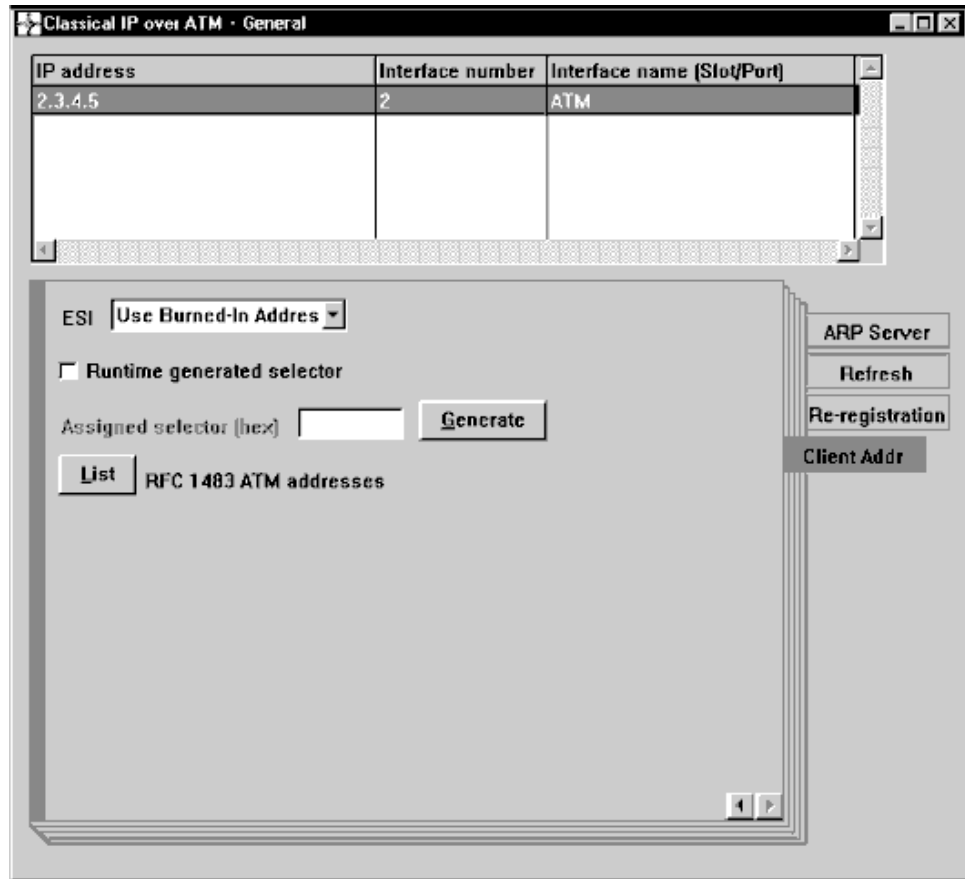


図4. 構成ウィンドウ

ノートブック・ページに入力した情報の妥当性検査を行うには、そのページを右クリックします。プログラムはフィールドを調べ、エラーを検出するとエラー・メッセージを出します。任意の時点でプログラムが必須フィールドに関する問題を検出した場合は、そのページのタブがカラーで強調表示されます (図4 の *Client Addr* タブで示されているように)。また、ナビゲーション・ウィンドウを右クリックし、ポップアップ・メニューから *Validate* オプションを選択することにより、いつでも構成の妥当性検査を行うことができます。プログラムは存在するエラーのリストを表示し、ユーザーはナビゲーション・ウィンドウ内の項目を選択して構成ウィンドウに新しい情報を入力する通常のプロセスによって訂正を行うことができます。

## 構成プログラムのナビゲート

構成プログラムは、ポイント・アンド・クリック・インターフェースとして設計されています。ナビゲーション・ウィンドウから項目を選択し、構成ウィンドウ内の関連ページにあるフィールドに記入します。ナビゲーション・ウィンドウ内の各項目は一般的に論理的順番で配列されており、構成作業をすすめるにつれてリストを降りていきます。また詳細情報の指定は左から右の順番になっています。構成プログラムは、作業を行うために必要なキーストロークを最小にするため、キーの組み合わせを提供しています。構成ウィンドウ内のパネルに関するフィールド固有ヘルプ情報を表示するには、そのフィールドを選択し、**F1** を押します。

## マウスの使用

マウスは、構成プログラムの各種ウィンドウ間を移動するための基本的な手段です。

構成プログラムでは、3 ボタン・マウスのボタンを、以下のようにサポートします。(3 ボタン・マウスの左と右のボタンは、2 ボタン・マウスの左および右マウス・ボタンに対応しています。)

- 左 (ボタン 1) - パネルの項目を選択します。
- 中央 (ボタン 2) - 以下の処置を実行します。
  - ナビゲーション・ウィンドウで
    - スクロール可能表示の選択された項目のポップアップ・メニューを表示する。
    - メニュー内を移動して、項目を選択する。
    - 選択項目にエラーが含まれていないか妥当性検査をする。ナビゲーション・ウィンドウでは、エラーのある項目は、その項目の横に黄色の疑問符で示されます。妥当性検査機能は、必須フィールドに有効な値がない場合、および構成エラーがある場合に、メッセージを表示します。
  - 構成ウィンドウで
    - 項目をドラッグ・アンド・ドロップする。プログラムは、カーソルを手の形のアイコンに変更することによって、ドラッグ・アンド・ドロップが活動状態であることを示します。この機能は、フィルター、ダンプ項目、およびその他の構成リストを再配列するのに使用します。たとえば、IP アドレス内の項目をドラッグ・アンド・ドロップして、それらを再配列し、新しい省略ゲートウェイを設定することができます。
- 注: 一部のリストは、そこに含まれる項目の再配列を行うことはできません。
- 実行 (キー)に入力したデータの妥当性検査を行うことができます。
- 右 (ボタン 3) は現在は使用しません。

## キーボードの使用

一部のキーおよびキーの組み合わせは特定の機能を持ちます。21ページの表5 はキー割り当てを示しています。

表5. キーボード機能

キー	機能	使用法
F1 (ヘルプ)	ヘルプを要求 (注を参照)	<p>機能またはプロトコルの構成についてのヘルプを表示するには、次のようにします。</p> <p>17ページの『ガイド構成の使用』を参照。</p> <p>パネルについてのヘルプを表示するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ナビゲーション・ウィンドウで項目を選択し、<b>F1</b> を押します。</li> </ol> <p>パラメーター、ボタン、またはドロップダウン・リストについてのヘルプを表示するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>パラメーター・フィールドまたはボタンを、タブ・キーを押してそのフィールド、ボタン、またはリストまで移動して選択し、<b>F1</b> を押します。</li> </ol> <p>注: フィールドまたはボタンまでタブ・キーを押して移動すると、項目がカラー・ボックスで強調表示され、このときヘルプを要求できます。ボタンをクリックすると、プログラムはボタンまたはリストで示された作業を実施します。</p> <p>ヘルプ・テキストでは、追加情報が特定パネルの情報にハイパーテキスト・リンクされています。省略時解釈では、このリンクは青色で強調表示されます。</p> <p>前にオープンしたヘルプ・ウィンドウをクローズせずに、パネルまたはパラメーター上で F1 を押すと、現在表示されているテキストの上に、新しいヘルプ・テキストがオーバーレーされます。</p>
上/下矢印キー	縦に移動	<p>これらのキーは、ナビゲーション・ウィンドウや、メニュー・バー選択メニュー内の項目を含めて、パネルに表示されたリスト内を移動するのに使用します。項目を選択するには、スペース・バーを押します。</p>
左/右矢印キー	横に移動	<p>これらのキーを使用して、メニュー項目 (選択した後の) およびナビゲーション・ウィンドウ内のそのドロップダウン・リストを移動します。また、既存の値に影響を与えずにパラメーター・フィールドから移動するのにも使用します。項目を選択するには、スペース・バーを押します。</p>
タブと後退タブ	次の入力フィールドまたは前の入力フィールド	<p>これらのキーは、構成ウィンドウでのみ作動します。これらのキーを使用して、構成ウィンドウの種々の項目に移動することができます。スクロール可能リスト (装置インターフェース・パネルなど) に項目がある場合は、スクロール・ウィンドウの下方にある項目まで移動します。</p>

表 5. キーボード機能 (続き)

キー	機能	使用法
<b>Alt+C</b>	メニューの構成	項目を選択するための <b>構成</b> メニューを表示します。
<b>Alt+P</b>	オプション・メニュー	項目を選択するための <b>オプション</b> メニューを表示します。
<b>Alt+H</b>	ヘルプ・メニュー	項目を選択するための <b>ヘルプ</b> メニューを表示します。
<b>Esc</b>	エスケープ	メニューを消去します。

## リスト内の複数の項目の選択

構成プログラムが選択リストを表示する場合、これらのリストから複数の項目を選択することができます。項目を選択する方式は、1 つのポイントで開始して別のポイントで終了したいか、あるいはリストからランダムに項目を選択するだけかに応じて異なります。

### 複数の個別項目を選択する場合:

**Ctrl** キーを押したまま、各項目をポイントし、次にマウス・ボタン 1 を押します。

### 項目の範囲を選択する場合:

範囲内の最初の項目を選択します。**Shift** キーを押したままにします。範囲内の最後の項目を選択し、次にマウス・ボタン 1 を押します。

### 項目を選択解除する場合:

**Ctrl** キーを押したままにし、選択解除したい項目をポイントし、マウス・ボタン 1 を押します。**Ctrl** キーを押したままにしない場合は、選択したばかりの項目を除く、前に選択されたすべての項目を選択解除します。

## 構成メニューの使用

ナビゲーション・ウィンドウの **Configure** メニューを使用すると、構成プログラムの各フィーチャーにアクセスすることができます。次のリストで、メニュー選択項目とその機能について説明します。下線文字および括弧で囲んだテキストは、その選択項目のキーの組み合わせ (ショートカット) を示しています。

### New configuration

現行の構成を、特定のモデル用の省略時構成にリセットします。プログラムは、ナビゲーション・ウィンドウを、選択したモデルに該当するリストにリセットします。

### Change Model

構成プログラムをリセットして、別のルーター・モデルのためのソフトウェアをサポートします。

**注:** このメニュー項目は マルチプロトコル・ルーティング・サービスのためにのみサポートされます。

### Change to High Perf Sys Card

アクセス・インテグレーター・サービス モデル 1xx-1U および 4xx-2U の構成を変更し、Release 2 High Performance System カードを使用します。

### Open configuration (Alt+O)

既存の構成を更新するか、または既存の構成を新規構成の基礎として使用します。

### Save configuration (Alt+S)

現行構成を構成ファイル (.csf) に保管します。構成を保管するときの物理ファイル名は、構成名の 8.3 バージョンで、無効なファイル名文字は下線に置き換えられ、ファイル拡張子は .csf です。

### Save configuration as

現行構成 (異なる構成名) を構成ファイル (.csf) に保管します。構成を保管するときの物理ファイル名は、新規構成名の 8.3 バージョンで、無効なファイル名文字は下線に置き換えられ、ファイル拡張子は .csf です。

### Delete configuration

構成を取り外します。**注:** 構成名は .csf ファイル名に対応しない場合もあります。構成プログラムを使用して構成を削除することをお勧めします。

### Create router configuration

ルーターにロードするバイナリー形式の構成ファイル (.cfg) を作成します。

### Read router configuration

“Create router configuration” オプションによって作成された、または TFTP を使用してルーターから入手した、バイナリー形式の構成ファイルを読み取ります。

### Communications

- 単一ルーターへの構成の送信、単一ルーターからの構成の検索、単一ルーターの再始動、または単一ルーターの情報の照会
- 複数のルーターへの構成の送信、複数のルーターからの構成の検索、または複数のルーターの再始動

**注:** 通信フィーチャーを使用する前に、構成プログラムとルーターとの間で通信を設定する必要があります。詳細については、24ページの『構成プログラムとルーター間の通信の設定』を参照してください。

### ASCII file

ASCII バージョンの構成を作成します。このファイルは、装置の構成のドキュメンテーションとして使用できます。

既存の ASCII 構成ファイルを読み込んで、装置にロードすることもできます。

### Exit (Alt+X)

構成プログラムを終了します。

---

## 構成プログラムとルーター間の通信の設定

構成プログラムとルーターを設定しないと、互いに通信を行うことはできません。

すでにルーターに構成をロード済みの場合は、25ページの『構成プログラムのセットアップ』で説明しているステップだけを実行すれば済みます。そうでない場合は、『ルーターのセットアップ』と25ページの『構成プログラムのセットアップ』の両方のステップを実行する必要があります。

### ルーターのセットアップ

この手順は、ルーターを設定して構成プログラムと通信を行う方法を説明します。以下のいずれの状態も、ルーターに構成がロードされません。

- 構成のない新規ルーターを使用する場合
- ルーターの構成を消去した場合
- ルーターに問題が発生して構成が消去された場合

これらの状態のいずれかが存在する場合は、以下のステップを実施してルーターを設定し、25ページの『構成プログラムのセットアップ』のステップを実行しないと、既存構成を送信することはできません。

1. ルーターへのアクセスを設定します。装置のセットアップ・ガイドに説明されているとおり、ASCII 端末を介してローカルに、または Telnet を使用してリモート側からこれを行うことができます。Telnet を使用するには、以下のステップを実施し、最低装置に関する IP アドレスを構成する必要があります。
2. クイック構成にアクセスします。2210 の場合、ルーターが EZSTART モードにある場合は、**stop** を入力して、QCONFIG にアクセスします。その他の装置の場合、装置が Config Only> モードにある場合は、**qc** コマンドを入力して、クイック構成にアクセスします。クイック構成の詳細については、装置のセットアップ・ガイドを参照してください。
3. ルーター用の 1 次インターフェースの場合は、以下の手順を使用して、IP アドレスおよび IP マスクを設定します。

**注:** ステップ 3.a および 3.b は、2210 にのみ適用されます。

- a. Configure Interfaces (インターフェースの構成) という質問に対して **yes** と応答します。
- b. 構成プログラムと通信する LAN インターフェースに必要なインターフェース情報を提供します。
- c. Configure Bridging (ブリッジの構成) という質問に対して **no** と応答します。
- d. Configure Protocols (プロトコルの構成) という質問に対して **yes** と応答します。
- e. Configure IP (IP の構成) という質問に対して **yes** と応答します。
- f. 構成プログラムと通信する LAN インターフェースについて尋ねる、Configure IP on this interface (このインターフェースの IP の構成) という質問に対して **yes** と応答します。
- g. IP Address プロンプトに、IP アドレスを入力します。
- h. Address Mask プロンプトに、IP マスクを入力します。



- i. 他のルーター・インターフェースについて尋ねる、Configure IP on this interface (このインターフェースの IP の構成) という質問に対して **no** と応答します。
  - j. Enable Dynamic Routing (動的ルーティング使用可能) という質問に対して **no** と応答します。
  - k. Define community with Read\_Write\_Trap Access (Read\_Write\_Trap アクセスを使ってコミュニティーを定義) という質問に対して **yes** と応答します。  
Read\_Write\_Trap アクセスを可能にする SNMP コミュニティー名を入力します。
  - l. Save this configuration (この構成を保管) という質問に対して **yes** と応答します。
4. ルーターを再始動または再ロードします。

ルーターが再始動シーケンスを完了すれば、構成プログラムと通信できるようになります。

## 構成プログラムのセットアップ

**注:** この手順は、24ページの『ルーターのセットアップ』のステップに従って、IP アドレスと SNMP コミュニティーがすでに構成され、ルーターにロードされていることを想定としています。アドレスとコミュニティーがすでに構成済みの場合は、Communications、Single の下の検索機能を使用して、ルーターから情報を検索することができます。

この手順は、構成プログラムを設定してルーターと通信を行う方法を説明します。その実施方法は次のとおりです。

1. New Configuration メニューから、該当するモデルを選択します。
2. IP フォルダー内の **Interfaces** を選択します。
3. 構成ウィンドウで、次のようにします。
  - a. 構成プログラムが通信する LAN インターフェースの横の **IP Addresses** を選択します。
  - b. このインターフェースの **IP アドレス** と **サブネット・マスク** を入力します。

**注:** これらのアドレスは、ルーターのインターフェースで構成されているアドレスと一致している必要があります。

- c. **Add** を選択します。
  4. ナビゲーション・ウィンドウの SNMP フォルダーの下の **Communities** を選択します。
  5. 構成ウィンドウで、次のようにします。
    - a. 汎用 (General) ページの名前 (Name) フィールドに、SNMP コミュニティーの名前を入力します。24ページの『ルーターのセットアップ』のステップ 3.k で定義された SNMP コミュニティーを使用します。
    - b. アクセス・タイプ (Access type) 下のドロップダウン・リストで **Read-write trap** を選択します。
    - c. **Add** を選択します。

注: 名前とアクセス・タイプは、構成プログラムが通信するルーターで構成されている名前とアクセス・タイプに一致している必要があります。

これで、構成プログラムはルーターと通信できるようになり、構成の送信、構成の検索、または ルーター情報の照会 などの機能を実行することができます。

注: 構成プログラムと、ルーターにロードされたソフトウェアのバージョンが同じでなければ、検索機能は失敗します。構成プログラムを前のバージョンから移行するには、9ページの『以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行』で説明されている手順を使用します。

## 新規ルーターの構成

構成プログラムを使用してルーターを構成するには、以下の手順で行います。

1. ナビゲーション・ウィンドウから **Configure** を選択します。
2. **New configuration** サブメニューから、構成したいモデルを選択します。
3. 装置フォルダーから **Adapter Interfaces** を選択して、ルーターのアダプターを適切なスロットに構成します。

注:

- a. ポート・パネルは、構成プログラムの AIS, MAS, および MRS バージョンにあります。このパネルは MSS または MSSC バージョンにはありません。
- b. 構成プログラムの MRS バージョンでは、最初に物理ポートが表示され、続いて仮想ポートが表示されます。  
AIS, MAS, MRS, MSS, および MSSC バージョンでは、仮想ポートと物理ポートを混在させることができます。
- c. インターフェース・パネルに、インターフェースがスロット順、次にポート順にソートされて表示されます。

4. 装置フォルダーから **Interfaces** を選択して、ルーターのインターフェースを構成します。
5. 装置フォルダーの中の汎用 (General) フォルダーを拡張します (まだ拡張していない場合)。
6. 汎用フォルダー内の項目を選択し、それぞれの項目のパラメーターを構成します。
7. システム・フォルダーから項目を選択し、それぞれの項目のパラメーターを構成します。
8. 必要に応じ、残りのフォルダーを選択して構成します。

## 既存の構成の変更

注: 構成プログラムを使用して既存構成を変更するときは、構成の更新がルーターのコマンド行インターフェースを使って実施中でないことを確認します。構成プログラムからルーターに構成を送信するときに、コマンド行で入力した構成データは失われます。

既存の構成を変更するには、以下のようにします。

1. 構成をオープンします。

2. 構成プログラムを使用して、変更が必要なパラメーターを変更します。
3. 構成を保管します。
4. **Communications** メニューを使用してルーターに構成を送信します。

---

## コマンド行機能の使用

コマンド行機能を使用すれば、構成プログラムの操作を自動化することができます。**config** コマンドを使用して、コマンドの完全セットを **cfgargs** という名前の引き数ファイル (構成プログラムはこれを使用してその操作を指示します) に入力することができます。あるいは、これを使用してコマンド行にコマンドを入力することができます。(**cfgargs** ファイルの例については、図5 を参照してください。) GUI インターフェースを表示せずに **config** コマンドのみを使用するには、ファイルまたはコマンド行の最後のコマンドは **-exit** でなければなりません。この要件を満たさない場合、プログラムは GUI インターフェースのナビゲーション・ウィンドウと構成ウィンドウを表示します。AIX では、**headless** コマンドを使用することができ、これは GUI ツールを呼び出さずにコマンドを処理します。これによってグラフィック表示を持たないマシン上でもコマンド行機能を使用することができます。

注: **config** コマンドは、ウィンドウ表示のオペレーティング・システムでのみ使用することができます。ウィンドウ形式のオペレーティング・システムの有無にかかわらず、AIX 環境で **headless** コマンドを使用することができます。

## CFGARGS ファイルの例

**config** コマンドを入力する場合、プログラムは **cfgargs** という名前のファイルを探します。図5 は、**cfgargs** ファイルの内容を示します。このファイルは次のことを行います。

- 修正した ASCII 構成ファイルをオープンする。
- オープンした構成をルーターに送信する。
- ルーターを即時にリブートして、現行構成をアクティブな構成にする。
- 現行構成を構成格納ファイルに保管します。

```
-displayMessages off 1
-storeMessages on cfgMessages.log 2
-asciiRead routerOne.acf withoutLogging 3
  --send 1.1.1.1 private 4
  --reboot 1.1.1.1 private 5
  --save * routerTwo 6
-exit
```

図5. CFGARGS ファイル内容の例

1. メッセージ表示をオフにする。メッセージで選択を提供する場合は、省略時選択を取る。
2. 指定のログ・ファイルにメッセージすべてのログを取る。
3. 指定の ASCII ファイルをオープンする。
4. 構成をルーターに送信する。

5. ルーターを即時にリブートして、この構成をアクティブな構成にする。
6. 指定された構成名の `routerTwo` を使用し、構成を直前の `save` コマンドによって指定されたディレクトリーに格納する。

## Config および Headless コマンドの指定

`config` または `headless` (AIX のみ) コマンドを入力する場合は、追加コマンドおよびその引き数を付けても付けなくても構いません。

### `config` | `headless`

プログラムに構成プログラム・ディレクトリー内の `cfgargs` ファイルを探させ、ファイルが存在する場合はファイル内のコマンドを実行します。プログラムがコマンドの処理を終えると、終了し、ファイルを削除します。`cfgargs` ファイルが存在しない場合は、プログラムはコマンド行上の追加のコマンドを待ちます。

**注:** 将来の構成変更を容易にするため、`cfgargs` ファイルの自動削除ができないようにしたい場合があります。これは、テキスト・エディターを使用して `cfgargs` ファイルをオープンし、構成プログラムがそのファイル内のコマンドを処理している間、ファイルをオープンにしたままにすることによって行うことができます。その代わりに、ファイルのコピーを異なる名前の下で保管しても構いません。

### `config -command [args] [...]`

コマンド行上で追加のコマンドおよび引き数を指定する場合、プログラムはそれらを処理します。各コマンドは負符号 (-) から開始し、コマンドの後に追加の引き数を必要なだけ付ける必要があります。

### `headless -command [args] [...]`

コマンド行上で追加のコマンドおよび引き数を指定する場合、プログラムはそれらを処理します。各コマンドは負符号 (-) から開始する必要があります。コマンドの後に追加の引き数を必要なだけ付けることができます (AIX のみ)。

引き数 `args` に組み込みブランクが含まれている場合は、引き数を二重引用符 (“ ”) で囲む必要があります。

**注:** コマンドをコマンド行上に入力しようとする場合は、`cfgargs` ファイルが構成プログラム・ディレクトリー内にすでに存在していないか確認する必要があります。これが必要なのは、ファイルが存在している場合、プログラムはファイル内のコマンドのみを処理し、コマンド行上で入力したコマンドを無視するからです。

以下のリストは、`config` および `headless` コマンドに関連するコマンドと引き数について説明します。

#### **注:**

1. コマンドと引き数は、スペース、タブ、または改行のいずれかによって相互から分離する必要があります。
2. コマンドは大文字でも小文字でも入力することができます。

3. 物理ファイル名の前にパスを含まない *filename* 引き数は、現行ディレクトリーをパスとして使用します。

**-asciiRead** *filename* [**withoutLogging**]

*filename* 必須の引き数。ASCII 構成ファイルの名前を指定し、それをメモリー内の現行構成として構成プログラムに読み込みます。注: AIX の場合、*filename* に組み込みブランクが含まれている場合は、それを二重引用符 (“ ”) で囲む必要があります。

**withoutLogging**

オプションの引き数。妥当性検査エラーのログを取らないことを指定します。

注:

1. ASCII ファイル注釈は、情報を提供するだけであり、**-asciiRead** コマンドによって指定された ASCII ファイル内に存在していても無視されます。
2. 省略時では、構成プログラムは ASCII ファイルに妥当性検査エラーを書き込みます。このファイルの名前は、読み取るファイルと同じ名前に **.vlg** 拡張子を付けたものです。

**-asciiWrite** *filename* [**withComments**]

*filename* 必須の引き数。ASCII 構成ファイルの名前を指定し、メモリー内にある構成プログラムの現行構成からファイルを作成します。

**withComments**

オプションの引き数。ASCII 構成ファイルについて説明する追加の注釈を、出力ファイルに入れるかどうかを指示します。

注: このコマンドによって書き込まれた ASCII ファイル注釈は、単に情報を提供するだけであり、**-asciiRead** コマンドによって指定された ASCII ファイル内に存在していても無視されます。

**-commandsFrom** *filename*

*filename* 必須の引き数。追加のコマンドを含むファイルの名前を指定し、それらのコマンドを読み取り、処理します。**-commandsFrom** コマンドは、最大 10 ファイルにネストすることができます。

<b>-createConfiguration</b>	<i>filename</i>  <i>filename</i>	必須の引き数。メモリー内のプログラムの現行構成から、(ルーターによって認識されるバイナリー形式で) 作成中のファイルの名前を指定します。
<b>-displayMessages</b>	<b>on   off</b>  <b>on</b>  <b>off</b>	メッセージの表示を使用可能にします。メッセージの表示を制御することができますようにします。  メッセージの表示を使用不可にします。メッセージがアクションの選択を提供しているような場合、プログラムは省略時アクションを取りません。
<b>注:</b>		
1. <b>-displayMessages</b> コマンドは、コマンド行、 <i>cfgargs</i> ファイル、または任意の <b>-commandsFrom</b> ファイル内のいずれに指定することもできます。		
2. 複数の <b>-displayMessages</b> コマンドを指定することができますが、構成プログラムは最後のコマンドのみを採用します。		
<b>-exit</b>	構成プログラムの GUI ウィンドウをクローズし、プログラムを終了します。複数のコマンドを指定する場合、最後のコマンドは常に <b>-exit</b> にする必要があります。	
<b>-exitOnError</b>	コマンド行の処理中にエラーが発生する場合、GUI を開始することなくプログラムを終了します。 <i>errors.log</i> ファイルまたは <b>-storeMessages</b> コマンドで指定されたファイルは、エラーのソースを識別します。	
<b>-noLogo</b>	始動時の構成プログラムのロゴ・ウィンドウの表示を抑止します。ロゴ・ウィンドウは OK ボタンを選択することを要求するので、非対話式モードで構成プログラムを実行するには、このコマンドを指定してください。このコマンドは、AIX において <b>headless</b> コマンドを実行するときには必要ありません。	
<b>-open</b>	<i>directory config</i>	

*directory* 必須の引き数。オープンしたい構成が入っているディレクトリーの名前を指定します。

*config* 必須の引き数。オープンしたい構成の名前を指定します。このコマンドは、内容をメモリー内のプログラムの現行構成として保管します。構成名がブランクを含んでいる場合は、その名前を二重引用符 (" ") で囲む必要かがあります。

**-queryinfo** *host name | ip address community [timeout]*

*host name | ip address*  
 必須の引き数。プログラムが IP アドレスに解決できるルーターの名前、またはルーターの実際の IP アドレスのいずれかを指定します。このコマンドは、ルーターから構成の要約を検索します。プログラムは、要約の表示およびログ記録を、それぞれ **-displayMessages** および **-storeMessages** コマンドに基づいて行います。

*community* 必須の引き数。ルーター上で定義されている、読み取りアクセス可能な SNMP コミュニティーを指定します。

*timeout* オプションの引き数。SNMP 要求の有効期限が切れるまでの時間 (秒数) を指定します。デフォルト値は 10 です。

**-read** *filename*

*filename* 必須の引き数。読み取るルーター構成ファイルの名前を指定し、それをプログラムの現行構成に読み込みます。ファイルは、ルーターが認識できるバイナリー形式である必要があり、また構成のリリース・レベルは構成プログラムのリリース・レベルと一致する必要があります。

**-reboot** *host name | ip address community [timeout] [date] [time]*

*host name | ip address*  
 必須の引き数。プログラムが IP アドレスに解決できるルーターの名前、またはルーターの実際の IP アドレスのいずれかを指定します。このコマンドは、プログラムが実行されているワークステーションの日時に基づき、指定された日時に再始動要求をルータ

ーに送信します。プログラムは、プログラムがコマンドを処理する日時とコマンド引き数に指定された日時間の秒数を計算します。

*community* 必須の引き数。ルーター上で定義されている、読み取りアクセス可能な SNMP コミュニティを指定します。

*timeout* 日付または時刻の引き数が指定されていない場合のオプション引き数。その場合は必須。SNMP 要求の有効期限が切れるまでの時間 (秒数) を指定します。デフォルト値は 10 です。

*date* 時刻引き数が指定されない場合のオプション引き数。その場合は必須。ルーターがリブートする日付を指定します。省略時値は現在の日付です。フォーマットは *dd/mm/yyyy* で、*dd* は 2 桁の日付、*mm* は 2 桁の月、そして *yyyy* は 4 桁の年です。年は 2 桁または 4 桁で入力することができます。

*time* オプションの引き数。ルーターがリブートする時刻を指定します。省略時値は現在の時刻です。時刻のフォーマットは *HH:MM:SS* (am または pm)、あるいは 24 時間フォーマットの時刻、たとえば、1800 (コロンは付けない) です。SS 値 (秒数) および am または pm PM フィールドはオプションです。

**-retrieve** *host name | ip address community [timeout]*

*host name | ip address*

必須の引き数。プログラムが IP アドレスに解決できるルーターの名前、またはルーターの実際の IP アドレスのいずれかを指定します。このコマンドはルーターから構成を検索して、メモリー内のプログラムの現行構成にします。

*community* 必須の引き数。ルーター上で定義されている、読み取りアクセス可能な SNMP コミュニティを指定します。

*timeout* オプションの引き数。SNMP 要求の有効期限が切れるまでの時間の長さ (秒数) を指定します。デフォルト値は 10 です。

**-save** *directory config*

*directory* 必須の引き数。プログラムのメモリーにある現行構成を保管したいディレクトリーの名前を指定しま



す。名前の代わりに \* を指定する場合、プログラムは一番最近に名前を付けられた構成ディレクトリーを使用します。

注: AIX では、**-save** コマンドを `cfgargs` または `-commandsFrom` ファイルに指定した場合だけ、名前の代わりに \* を指定することができます。これはコマンド行ではサポートされていません。

*config*

オプションの引き数。現行構成を保管するときの構成ファイルの名前を指定します。省略時値は現行の構成名です。構成を保管するときの物理ファイル名は、構成名の 8.3 バージョンで、無効なファイル名文字は下線に置き換えられ、ファイル拡張子は **.csf** です。

**-send** *host name | ip address community [timeout]*

*host name | ip address*

プログラムが IP アドレスに解決できるルーターの名前、またはルーターの実際の IP アドレスのいずれかを指定します。このコマンドは、メモリー内のプログラムの現行構成をルーターに送信します。

*community*

必須の引き数。ルーター上で定義されている、読み取りアクセス可能な SNMP コミュニティーを指定します。

*timeout*

オプションの引き数。SNMP 要求の有効期限が切れるまでの時間の長さ (秒数) を指定します。デフォルト値は 10 です。

**-sendMultiple** *send list*

*send list*

必須の引き数。`send list` は、構成およびルーター・アドレスのリストを含んでいます。このリストを生成するには、構成プログラム・メニュー・バーを使用して **Options** → **Communications** → **Send Multiple** を選択し、`Send Multiple` ウィンドウ内のフィールドを埋めます。このコマンドは、複数のルーター構成を複数のルーターに送信します。

**-storeMessages** **on** [*filename*] **off**

**on** メッセージのログ記録を使用可能にします。ログ・ファイルが存在する

場合、システムはそのファイルにメッセージを付加します。ログ・ファイルが存在しない場合、プログラムはログ・ファイルを作成します。

<i>filename</i>	オプションの引き数。ログを取ったメッセージを入れるファイルの名前を指定します。省略時値は <b>cfg.log</b> です。
<b>off</b>	メッセージのログ記録を使用不可にします。

**注:**

1. **-storeMessages** コマンドは、コマンド行、 *cfgargs* ファイル、または任意の **-commandsFrom** ファイル内のいずれかに指定することもできます。
2. 複数の **-storeMessages** コマンドを指定できますが、構成プログラムは最後のコマンドだけを有効にします。
3. **-displayMessages** を使用不可にするか、**-storeMessages** を使用可能にする場合、プログラムはすべてのメッセージをログ・ファイルに書き込みます。

**-timedConfig** *host name | ip address community [timeout] [date] [time]*

*host name | ip address*

必須の引き数。プログラムが IP アドレスに解決できるルーターの名前、またはルーターの実際の IP アドレスのいずれかを指定します。このコマンドは、プログラムが実行されているワークステーションの日時に基づき、指定された日時に再ロードする要求とともに構成ファイルをルーターに送信します。

**注:**

1. このコマンドは **-send** コマンドと似ていますが、日時引き数で指定された値に基づいてタイマーが設定される点が異なります。タイマーは再ロードまたは電源異常によって影響を受けません。タイマー値の有効期限が切れると、ルーターは構成をロードします。
2. 日時引き数が現行の日時より早いものを指定する場合、構成はルーターの **IBD (FLASH)** に送信されますが、タイマーは設定されず、構成は決してロードされません。
3. 構成プログラムの **MSS** および **MSSC** バージョンはこのコマンドをサポートしていません。

*community*

必須の引き数。ルーター上で定義されている、読み取りアクセス可能な **SNMP** コミュニティを指定します。

<i>timeout</i>	日付または時刻の引き数が指定されていない場合のオプション引き数。その場合は必須。SNMP 要求の有効期限が切れるまでの時間の長さ (秒数) を指定します。デフォルト値は 10 です。
<i>date</i>	時刻引き数が指定されない場合のオプション引き数。その場合は必須。ルーターが再ロードする日付を指定します。省略時値は現在の日付です。フォーマットは <i>dd/mm/yyyy</i> で、 <i>dd</i> は 2 桁の日付、 <i>mm</i> は 2 桁の月、そして <i>yyyy</i> は 4 桁の年です。年は 2 桁または 4 桁で入力することができます。
<i>time</i>	オプションの引き数。ルーターが再ロードする時刻を指定します。省略時値は現在の時刻です。時刻のフォーマットは <i>HH:MM:SS</i> ( <i>am</i> または <i>pm</i> )、あるいは 24 時間フォーマットの時刻、たとえば、1800 (コロンは付けません) です。SS 値 (秒数) および <i>am</i> または <i>pm</i> フィールドはオプションです。

---

## ASCII ファイルの作成および使用

省略時値により、構成プログラムは構成ファイルをバイナリー形式で保管しますが、構成プログラムを使用して、ASCII 形式で構成ファイルの作成と読み取りを行うことができます。また、構成ファイルを両形式間で変換することもできます。

ASCII 構成ファイルは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースに構成をロードせずに、一度に多数の構成を更新する必要がある場合に役立つことがあります。

**注:** ASCII 構成機能は、新規構成を作成したり、既存の構成を大きく変更したりする場合には使用しません。

たとえば、ネットワーク全体にわたる多数の IP アドレスを更新する必要がある場合、更新する構成ファイルを ASCII 形式で保管し、手作業で (またはプログラムを用いて自動的に) アドレスを更新した方が早いことがあります。また、ASCII 形式で構成ファイルを保管すると、構成をオンラインでスキャンしたり、検討のために構成を印刷したりするときにも役立ちます。

ASCII 構成を更新したら、構成プログラムに読み込んで、バイナリー形式で構成を保管することができます。マルチプロトコル装置がロードできる構成は、バイナリー形式のものだけです。

## ASCII 機能の概要

ASCII 機能は、ASCII ファイル項目の下の **Configure** メニューに含まれています。**ASCII file** を選択すると、以下のメニュー項目が表示されます。

- **Create single file...** では、単一の ASCII 構成ファイルを作成します。
- **Read single file...** では、単一の ASCII 構成ファイルを構成プログラムのメモリーに読み込みます。

**Create single file...** を選択すると、ダイアログが表示されるので、その中でプログラムが書き込む ASCII ファイルのパス名とファイル名を指定します。必要に応じ、このダイアログで ASCII ファイルに注釈を書き込むこともできます。

**Read single file...** を選択すると、ダイアログが表示されるので、その中でプログラムが読み取る ASCII ファイルのパス名とファイル名を指定します。またこのダイアログで、構成プログラムが妥当性検査エラーを妥当性検査ファイルに書き込まないようにすることもできます。省略時値により、妥当性検査ファイルにはファイル拡張子 **.vlg** が付きます。

**注: Read single file...** 機能が ASCII ファイルを正常に読み取るには、以下のいずれかを行う必要があります。

- **Create single file...** 機能を使ってファイルを作成するか、または
- **Create single file...** で作成されるものと同じパラメーター構造を持つ ASCII ファイルを作成する。

42ページの『コマンド行機能を使用した ASCII ファイルの処理』では、構成コマンド行機能を使用して ASCII ファイルを処理する方法を説明します。

## ASCII ファイルの作成

構成プログラムは、現行構成を使用して ASCII ファイルを作成します。このため、特定の装置用に ASCII ファイルを作成する場合は、以下のことを行います。

1. 装置を構成します。すでに構成済みの装置用の ASCII ファイルが必要な場合は、**Retrieve configuration** を使用して、その構成を入手してプログラムのメモリーにロードします。
2. ナビゲーション・ウィンドウのメニューから **Configure** を選択します。
3. **ASCII file** をメニューから選択します。ただし、このときマウス・ボタンを放さないでください。
4. 右に移動して **Create single file...** を選択します。プログラムはファイル・ダイアログを表示します。
5. プログラムが ASCII ファイルを書き込む先のパス名とファイル名を入力します。ASCII ファイルを置換したい場合は、ファイル・ダイアログから既存のファイルを選択できます。
6. **OK** を選択します。

構成プログラムは、メモリー内の現行構成を使用して ASCII ファイルを作成します。このファイルには、構成パラメーターとその現行値が格納されます。

ASCII ファイルの作成は、実際には構成をバイナリー形式から ASCII に変換することと同じです。38ページの『ASCII ファイルの解釈』は、ASCII ファイルのサンプルの内容を説明しています。

## ASCII ファイルへの注釈の追加

ASCII ファイルに注釈を追加することができます。この注釈は、ASCII ファイルを他の構成のテンプレートとして使用する場合に役立ちます。注釈には以下のものがあります。

- パラメーターの簡単な説明
- 値のタイプ
- 有効な値、または値の範囲 (該当する場合)

注釈は、ASCII ファイルを更新する際に役立つガイドになります。44ページの『構成テンプレートとして ASCII ファイルを使用する』は、ASCII ファイルの構成テンプレートとしての使用について説明しています。

## ASCII ファイルの読み取り

### 重要

リリース間で構成パラメーターが変更されているため、構成プログラムは同じバージョンの構成プログラムで作成された ASCII ファイルのみを読み取ります。古い ASCII ファイルのバージョン番号を更新したり、有効な構成ファイルのバージョン番号を変更したりすると、読み取り機能に障害が発生することがあります。構成プログラムが ASCII 構成の妥当性を検査する方法については、45ページの『構成プログラムが ASCII ファイルの妥当性を検査する方法の概要』を参照してください。

ASCII ファイルを、あるバージョンから別のバージョンにアップグレードすることはできません。リリース間で移行できるのは、バイナリーの構成ファイル (.csf) だけです。古い構成ファイルの移行手順については、9ページの『以前のレベルの構成ファイルのアップグレード/移行』を参照してください。

ASCII ファイルを読み取ると、構成プログラムはファイルをメモリーに読み込み、現行構成を置き換えます。現在メモリー内にある構成が必要な場合は、ASCII ファイルを読み取る前に **Save configuration** 機能、または **Save configuration as** 機能を使用します。読み取り機能の制約事項については、35ページの『ASCII 機能の概要』を参照してください。

ユーザー独自の ASCII ファイルを作成する際に役立つ ASCII ファイルの説明については、38ページの『ASCII ファイルの解釈』を参照してください。

ASCII ファイルを読み取るには、以下のことを行います。

1. ナビゲーション・ウィンドウのメニューから **Configure** を選択します。
2. **ASCII file** をメニューから選択します。ただし、このときマウス・ボタンを放さないでください。
3. 右に移動して **Read single file...** を選択します。プログラムはファイル・ダイアログを表示します。
4. プログラムが ASCII ファイルを読み取るパス名とファイル名を入力するか、ダイアログからファイルを選択します。
5. 構成中のエラーの ASCII レコードを構成プログラムで作成したい場合は、**Log validation errors** を選択します (これは省略時値です)。構成プログラムは常に構成の妥当性を検査してエラーを表示するので、妥当性検査エラーのログを取る必要はありませんが、以下の場合にこの機能が役立ちます。

- 構成を検査して、装置にバイナリー・ファイルを送信する前に問題を訂正する場合。
- ASCII ファイルを複数のルーターから読み取り、読み取り処理が完了してから妥当性検査エラーを判別することができるようにする場合。

注: 構成プログラムで変更を行った場合、**Create single file...** を使用してエラーのある ASCII ファイルを置き換えることができます。

6. **OK** を選択します。

省略時値により、妥当性検査ファイルにはファイル拡張子 **.vlg** が付きます。

構成を読み取ったら、以下のことが可能です。

- **Send configuration to router** を使用して、構成ファイルを装置に送信する。
- **Save configuration** または **Save configuration as** を使用して、構成を保管する。

## ASCII からバイナリーへの変換

マルチプロトコル装置では、構成がバイナリー形式であることが必要です。構成プログラムを使用すれば、以下のようにして ASCII ファイルをバイナリーに変換することができます。

1. 37ページの『ASCII ファイルの読み取り』で説明されているように ASCII ファイルを読み取って、**Send** 機能を使用して装置に構成を送信します。
2. 37ページの『ASCII ファイルの読み取り』で説明されているように ASCII ファイルを読み取って、**Create configuration** 機能を使用して新しい構成ファイルを作成します。
3. 37ページの『ASCII ファイルの読み取り』で説明されているように ASCII ファイルを読み取って、**Save configuration** 機能または **Save configuration as** 機能を使用して構成を保管します。

## バイナリーから ASCII への変換

バイナリーの構成ファイルがある場合、以下のようにしてファイルを変換できます。

1. **Open configuration** を使用してファイル (省略時は拡張子 **.csf** が付いている) を構成ファイルに読み込み、**Create single file...** を使用して ASCII ファイルを作成します。
2. 装置から構成を検索して、**Create single file...** を使用して ASCII ファイルを作成します。

## ASCII ファイルの解釈

40ページの図6 には、注釈の付いた ASCII ファイルの一部分のサンプルが示されています。ASCII ファイルを解釈する際は、以下のことに注意してください。

- ヘッダー情報は感嘆符 (!) で始まります。

- 注釈は 1 桁目のアスタリスク (\*) で始まります。注釈は、パラメーターの説明や、有効な値と範囲を示します。必要に応じ、注釈はパラメーターのタイプを示します。タイプには、以下のものがあります。

**Multiple Segments (複数のセグメント)**

明確に定義された部分からなるデータに使用されます。たとえば、IP アドレスや IP アドレス・マスクの定義に使用される、4 つのセグメントからなる数値アドレスなど。

**Numeric (数値)**

通常は、数値計算が実行されるデータに使用されます。データ値の範囲は、数値データ・タイプすべてに適用されます。

**String (文字列)**

文字列は特定の長さ以内である必要があり、特定の文字列の集合のみで構成することができます。

**Enumerated (列挙)**

多肢選択値に使用されます。ASCII ファイルを注釈付きで保管すると、注釈は可能な値を示します。例を以下に示します。

**Enable/Disable (使用可/使用不可)**

1 = 使用可、2 = 使用不可。主に、アダプター・ポートやプロトコルを使用可/使用不可にするために使用されます。

- 構成グループおよびパラメーターはポンド記号 (#) で始まります。
- 項目のグループは { と } との間に入れられます。
- 項目のリストの中の要素は { と } との間に入れられます。
- "nil" という語は、現在パラメーターに値がないことを示します。
- パラメーターを構成しなくても、すべてのパラメーターがファイルに表示されます。値を明示的に指定しないと、プログラムは省略時値を使用します。パラメーターに対する省略時値が存在しない場合は、プログラムは "nil" を使用します。
- 暗号化された値の前には "E." が付きます。構成プログラムによって暗号化する新規の値を指定するには、"E" を "U" に変更して、元の値を新規の値で上書きします。構成プログラムは、ASCII ファイルを読み取るときに新規の値を暗号化します。

```

2210 Configuration
November 18, 1996 at 3:08:56 pm
! 'Configuration:' = 'config'
! 'Model:' = 'model 121/T'
! 'Adapter:' = 'emptySlot'
! 'Version:' = '13011'

#'appletalk' = {

*   at2General = {
*     at2Enable : Enable Appletalk 2
*       value : enable or disable
*     at2Checksum : Checksum
*       value : enable or disable
*     at2Translation : Translate
*       value : enable or disable
*     at2FastPath : Fast path cash size
*       value : range from 100 to 10000 }
*   #'at2General' = {
*     #'at2Enable' = 'disable'
*     #'at2Checksum' = 'disable'
*     #'at2Translation' = 'disable'
*     #'at2FastPath' = '500'
*   }
*   at2Interfaces = { list of at2Interface }
*   at2Interface = {
*     at2InterfaceGeneral = {
*       at2FirstNetworkRange : Lowest number of network range
*         value : range from 1 to 65279
*       at2LastNetworkRange : Highest number of network range
*         value : range from 1 to 65279
*       at2NodeNumber : Node number
*         value : range from 0 to 254
*       at2DefaultZoneName : Default zone name
*         value : a string no more than 34 character(s) in length
*           with any ASCII character
*       at2InNFilter : Input NFilter
*         value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2OutNFilter : Output NFilter
*         value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2InZFilter : Input ZFilter
*         value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2OutZFilter : Output ZFilter
*         value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2EnableInterface : Enable interface
*         value : enable or disable

```

図6. 注釈付きのサンプル ASCII 構成 (1/3)



```

*       at2InputNetworkFilter : Input NFilter
*       value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2OutputNetworkFilter : Output NFilter
*       value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2InputZoneFilter : Input ZFilter
*       value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2OutputZoneFilter : Output ZFilter
*       value : 1 of the following strings: None Inclusive Exclusive
*       at2SplitHorizon : Split horizon
*       value : enable or disable  }
*
* at2ZoneNames = { list of at2ZoneName }
* at2ZoneName = {
*       at2ZName : Zone name
*       value : a string
*               no less than 1 character(s) in length
*               and no more than 32 character(s) in length
*               with any ASCII character }*
* at2NFilter = {
*       at2FirstFilterNetworkRange : First network range number
*       value : range from 1 to 65279
*       at2LastFilterNetworkRange : Last network range number
*       value : range from 1 to 65279
*       at2NetworkFilterType : Filter type
*       value : 1 of the following strings: In Out  }
* at2ZFilters = { list of at2ZFilter }
* at2ZFilter = {
*       at2FilterZoneName : Zone name
*       value : a string
*               no less than 1 character(s) in length
*               and no more than 30 character(s) in length
*               with any ASCII character
*
*       at2ZoneFilterType : Filter type
*       value : 1 of the following strings: In Out  }  }
*
* #'at2Interfaces' = {
*   #'at2Interface' = {
*     #'at2InterfaceGeneral' = {
*       #'at2FirstNetworkRange' = nil
*       #'at2LastNetworkRange' = nil
*       #'at2NodeNumber' = '0'
*       #'at2DefaultZoneName' = nil
*       #'at2InNFilter' = 'None'
*       #'at2OutNFilter' = 'None'
*       #'at2InZFilter' = 'None'
*       #'at2OutZFilter' = 'None'
*       #'at2EnableInterface' = 'disable'
*       #'at2InputNetworkFilter' = 'None'
*       #'at2OutputNetworkFilter' = 'None'
*       #'at2InputZoneFilter' = 'None'
*       #'at2OutputZoneFilter' = 'None'
*       #'at2SplitHorizon' = 'enable'
*     }
*     #'at2ZoneNames' = {  }
*     #'at2NFilters' = {  }
*     #'at2ZFilters' = {  }
*   }
*   #'at2Interface' = {
*     #'at2InterfaceGeneral' = {
*       #'at2FirstNetworkRange' = nil
*       #'at2LastNetworkRange' = nil

```

図6. 注釈付きのサンプル ASCII 構成 (2/3)

```

        #'at2NodeNumber' = '0'
        #'at2DefaultZoneName' = nil
        #'at2InNFilter' = 'None'
        #'at2OutNFilter' = 'None'
        #'at2InZFilter' = 'None'
        #'at2OutZFilter' = 'None'
        #'at2EnableInterface' = 'disable'
        #'at2InputNetworkFilter' = 'None'
        #'at2OutputNetworkFilter' = 'None'
        #'at2InputZoneFilter' = 'None'
        #'at2OutputZoneFilter' = 'None'
        #'at2SplitHorizon' = 'enable'
    }
    #'at2ZoneNames' = { }
    #'at2NFilters' = { }
    #'at2ZFilters' = { }
    #'at2Interface' = {
        #'at2InterfaceGeneral' = {
            #'at2FirstNetworkRange' = nil
            #'at2LastNetworkRange' = nil
            #'at2NodeNumber' = '0'
            #'at2DefaultZoneName' = nil
            #'at2InNFilter' = 'None'
            #'at2OutNFilter' = 'None'
            #'at2InZFilter' = 'None'
            #'at2OutZFilter' = 'None'
            #'at2EnableInterface' = 'disable'
            #'at2InputNetworkFilter' = 'None'
            #'at2OutputNetworkFilter' = 'None'
            #'at2InputZoneFilter' = 'None'
            #'at2OutputZoneFilter' = 'None'
            #'at2SplitHorizon' = 'enable'
        }
        #'at2ZoneNames' = { }
        #'at2NFilters' = { }
        #'at2ZFilters' = { }
    }
}
}
}

```

図6. 注釈付きのサンプル ASCII 構成 (3/3)

## コマンド行機能を使用した ASCII ファイルの処理

35ページの『ASCII 機能の概要』で説明されている機能の他に、構成プログラムのコマンド行機能は以下の機能もサポートしています。

### バイナリーから ASCII への変換

1 つまたは複数のバイナリー形式の構成ファイルを構成格納ファイル (.csf) から選択し、ASCII 形式のファイルを作成して、ハード・ディスクに保管することができます。

### ASCII からバイナリーへの変換

1 つまたは複数の ASCII 形式の構成ファイルをハード・ディスクから選択し、バイナリー形式の構成ファイルを作成して、構成格納ファイル (.csf) に保管することができます。

以下では、構成プログラムのコマンド行機能を使用して、ASCII ファイルを処理する方法を説明します。cfgargs ファイルを作成するための例が示されているので、特定の処理をバッチ・モードで実行することができます。

## ASCII ファイルの作成

ASCII ファイルを作成するには、**asciiWrite** コマンドを使用します。特定の装置用に ASCII ファイルを作成する場合、**cfgargs** ファイルにコマンドを書き込む前に、その装置から構成を検索します。以下の例では、装置 CON656A 用の構成の ASCII ファイルを注釈付きで作成し、その後構成プログラムを終了します。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -retrieve CON656A myread
  -asciiWrite d:\asccfgs\con656a.acf withComments
-exit
```

## ASCII ファイルの読み取り

ASCII ファイルを構成プログラムのメモリーに読み込むには、**asciiRead** コマンドを使用します。以下の例では、ディレクトリー **asccfgs** にある **rtr656b.acf** という名前の ASCII ファイルを読み取ります。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656b.acf
-exit
```

注: 妥当性検査エラーのログが **rtr656b.vlg** に記録されます。

## ASCII からバイナリーへの変換

ASCII ファイルを、装置の構成のバックアップとして使用できるバイナリー・ファイルに変換するには、**createConfiguration** コマンドを使用します。以下の例では、ASCII ファイルを読み取って装置に送信してから、バックアップ用のバイナリー構成ファイルを作成します。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -asciiRead d:\asccfgs\mss656c.acf
  -send mss656c mywrite
  -createConfiguration d:\bincfgs\mss656c.cfg
-exit
```

## 検索したファイルの ASCII への変換

たとえばデバッグやアップグレードの計画などのために、現行構成を検討する必要があることがあります。次の例では、装置 **RTR656D** から構成を検索して、後で使用するためにその構成を ASCII に変換します。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -retrieve rtr656d readit
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656d.acf
-exit
```

## 複数の装置での ASCII ファイル機能の使用

複数のルーターから構成の ASCII バージョンを作成したり、複数の ASCII ファイルをバイナリーに変換して各種の装置に送信する必要がある場合があります。以下では、コマンド行機能を使用してこれらの処理を行う方法を概説します。

**複数の ASCII ファイルの作成:** 以下の例では、事前構成された 5 つの装置を受け取った直後であることを想定しています。ここでは、これらの装置用の構成を文書化する方法を示します。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -retrieve rtr656a reada
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656a.acf
  -retrieve rtr656b readb
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656b.acf
  -retrieve rtr656c readc
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656c.acf
  -retrieve rtr656d readit
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656d.acf
  -retrieve rtr656e readit
  -asciiWrite d:\asccfgs\rtr656e.acf
-exit
```

**複数の ASCII ファイルの読み取り:** 以下の例では、構成のある 5 つの装置を再ロードする必要があり、有効な ASCII ファイルがあることを想定しています。装置は、それぞれの装置上の構成プログラムと通信するようにすでに設定されています。各装置には固有の構成があり、バイナリー構成を保管する必要はないものとします。

```
-displayMessages off
-storeMessages on cfgCmds.log
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656f.acf
  -send mss656f mywritef
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656g.acf
  -send mss656g mywriteg
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656h.acf
  -send mss656h mywriteh
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656i.acf
  -send mss656i mywritei
  -asciiRead d:\asccfgs\rtr656j.acf
  -send mss656j mywritej
-exit
```

## 構成テンプレートとして ASCII ファイルを使用する

ASCII ファイルの作成と読み取りの機能により、多数の装置構成の作成や更新の処理を自動化できます。以下に示す手順では、大量の更新の実行に使用できる方法を概説します。

1. 構成する装置用の新しい情報を格納したファイルを作成します。全体または一部のテンプレートを使用できます。指定したインターフェースやアダプターが、ヘッダー内で指定されているモデルおよびアダプターと一致していることを確認してください。
2. 装置ファイルと構成テンプレート・ファイルを読み取るためのプログラムを作成します。
3. テンプレート・ファイルのコピーを作成し、装置情報を使用して新しいコピーを更新し、後で送信する際に識別しやすい名前ファイルでファイルを保管します。
4. ターゲットの装置と密接に一致した構成を持つ装置をネットワーク内で見つけます。理想的には、変更が必要なのは IP アドレス、MAC アドレス、ダイヤル回線番号のような項目のみであるようにします。装置は、同じフィルターとプロトコルをサポートおよび使用し、同じインターフェースを備えているようにします。

5. ステップ 44ページの4 で見付けた装置から、 **Retrieve configuration** を使用して装置構成を検索します。 構成プログラムのコマンド行機能を使用して構成を検索できます。
6. 構成の ASCII ファイルを作成します。
7. ステップ 6 で作成した ASCII ファイル、ステップ 44ページの1 で作成したファイル、およびステップ 44ページの2 で作成したプログラムを使用して、新規構成を作成します。

新規構成を作成したら、構成プログラムを使用して、上記で作成した ASCII ファイルを読み取り、必要に応じてバイナリー・ファイルとして保管し、該当する装置にファイルを送信することができます。44ページの『複数の ASCII ファイルの読み取り』には、この作業を自動化するのにコマンド行機能がどのように役立つかについて詳しく記載されています。

## 構成プログラムが ASCII ファイルの妥当性を検査する方法の概要

構成プログラムは、ASCII ファイルを読み取る際に以下の処理を実行します。

- ヘッダーに指定されたアダプターがある場合は、プログラムはその値を構成ファイルの Devices (装置) グループにあるアダプター・タイプと比較します。
- ヘッダーに指定されたモデルがある場合は、プログラムは以下の処理を行います。

1. 定義されたインターフェースがモデルの機能に一致するかどうか検査します。たとえば、2210 モデル 121 はイーサネット・インターフェースを装備できません。この場合、プログラムは読み取りを中断し、エラーのログを記録します。
2. インターフェースの数が、ヘッダーで指定されている装置構成に対して正しいかどうか検査します。

定義されたインターフェースが多すぎる場合、プログラムは正しい定義を判別できないため、構成の読み取りを中断し、エラーのログを記録します。

インターフェースが少なすぎる場合、プログラムは未定義のインターフェースについては省略時値を充てんします。たとえば装置に 2 つの WAN ポートがあり、1 つに値を与えた場合、プログラムは構成済みインターフェースの後の欠落したインターフェースに省略時値を使用します。

**注:** 未定義のインターフェースは、インターフェース・リストの最後に並ぶインターフェースである必要があります。たとえば、インターフェース 0、2、および 3 を定義した場合、構成プログラムは欠落したインターフェースに省略時値を使用しません。この場合、連続したインターフェース 0、1、2、および 3 をプログラムに対し定義して、欠落したインターフェースに省略時値を与える必要があります。インターフェース 1 の場合は、省略時インターフェースを与える **必要があります**。

- 装置インターフェースの数と、インターフェース・プロトコル・リスト内の要素の数を比較します。

インターフェース・プロトコル・リスト内の要素の数が、装置インターフェースの数よりも少ない場合、プログラムは残りのインターフェース用の省略時プロトコルでリストを充てんします。

インターフェース・プロトコル・リストの要素の数の方が多い場合、プログラムは読み取りを中断して、エラーのログを記録します。

## 構成プログラムの問題の診断

構成プログラムに関して問題が発生した場合は、その問題にもっともよく説明する症状を 表6 で見付けて、推奨処置欄で説明されている処置を実行してください。

表6. 問題の症状

徴候	推奨処置
構成プログラムを AIX で開始しようと試みると、エラー 34 メッセージで終了する	このメッセージは、プログラムが始動するための十分なスペースが /tmp ディレクトリー内がないことを示します。この問題を避けるには、ディレクトリー内の不要なファイルを削除するか、SMIT を使用してより多くのスペースを割り振ります。
パネルが読み取れない、またはパネルから選択できない。	プログラムを再導入して、オリジナルの初期設定ファイルを復帰します。
構成プログラムの実行が遅いか、ハングする。	他のアプリケーションを停止して、それによってプログラムが正常に動作するか調べます。動作しない場合は、プログラムを再導入してオリジナルの初期設定ファイルに戻します。
内部実行エラーまたは実行時エラー (ポップアップ・ウィンドウのエラー・メッセージによって示される)	以下を実行します。 <ol style="list-style-type: none"><li>ご使用中の構成プログラムのバージョンと問題に関連するエラー・メッセージをすべて記録します。</li><li>構成プログラムのディレクトリー内の以下のファイルを安全な場所にコピーします。<ul style="list-style-type: none"><li>walkback.log ファイル</li><li>作成していたバイナリーのルーター構成ファイル (.cfg)</li><li>作成していた構成格納ファイル (.csf)</li></ul></li><li>IBM カスタマー・サービスに連絡し、保管したファイルを提供します。</li></ol>

## 構成プログラムの除去

ユーザーのネットワークでその構成がまだ必要な場合には、構成プログラムを除去する前に、拡張子 **.csf** を持つ構成ファイルをすべて、構成プログラムのディレクトリーに保管しておく必要があります。Configuration メニュー (22ページの『構成メニューの使用』に説明されています) 上で **Save configuration** 選択項目または **Save configuration as** 選択項目のいずれかを指定します。

構成プログラムを除去するには、以下の手順で行います。

- 必要に応じ、構成を別のディレクトリーにコピーします。
- Windows の場合、「コントロール パネル」から「アプリケーションの追加と削除」オプションを使用してプログラムをアンインストールします。OS/2 の場合、**del** または **erase** コマンドを使用して構成プログラムのディレクトリー内にある

|  
|

ファイルを削除し、その後フォルダーを削除します。AIX の場合、SMIT を使用してプログラムをアンインストールします。





# 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

アップグレード、以前の構成ファイルの 9  
移行、以前のレベルの構成ファイルの 9  
ウィンドウ、ナビゲーションおよび構成の 13  
オプション・メニュー 16  
オペレーティング・システム、および構成プログラムの  
開始 7

## [カ行]

ガイド構成の使用 17  
カラーの変更 16  
キーの組み合わせ 20  
キーボード、ナビゲートのための使用 20  
機能キー、キーボード 20  
構成  
使用、ガイド 17  
セットアップ 25  
テンプレート、ASCII ファイルの使用 44  
ファイル 9  
移行、以前のレベルの 9  
プログラム 1  
開始 7  
使用 13  
使用する前に 13  
電子的に入手 2  
導入 1  
プロセスの概要 13  
変更、既存の 26  
構成ウィンドウ  
概要 13  
使用 17  
構成プログラム情報テーブルの開始 3  
構成プログラムの開始 7  
構成プログラムの除去 46  
構成プログラムを使用する前に 13  
構成メニュー  
使用 22  
選択項目 13  
高性能システム・カードへの変更 23  
構成のオープン 23  
構成の削除 23  
構成の別名保管 23  
構成の保管 23

構成メニュー (続き)  
選択項目 13 (続き)  
終了 23  
新規構成 22  
通信 23  
モデルの変更 22  
ルーター構成の作成 23  
ルーター構成の読み取り 23  
ASCII ファイル 23

## 構文

config コマンド 28  
headless コマンド 28  
項目、複数の、リストからの選択 22  
コマンド行  
機能  
使用 27  
ASCII ファイルの処理 42  
作成 43  
変換、検索したファイルの ASCII への 43  
変換、ASCII からバイナリーへ 43  
読み取り 43  
-asciiRead 29  
-asciiWrite 29  
-commandsFrom 29  
-createConfiguration 30  
-displayMessages 30  
-exit 30  
-exitOnError 30  
-noLogo 30  
-open 30  
-queryinfo 31  
-read 31  
-reboot 31  
-retrieve 32  
-save 32  
-send 33  
-sendMultiple 33  
-storeMessages 33  
-timedConfig 34  
コマンド行機能の使用 27

## [サ行]

作成  
および ASCII ファイルの使用 35  
cdb ファイル 9  
csf ファイル 9  
使用、ガイド構成の 17  
情報テーブル  
構成プログラムの開始 3

情報テーブル (続き)

導入 3

診断、問題の 46

設定、ルーターと構成プログラム間の通信の 24

セットアップ

構成プログラム 25

ルーター 24

## [タ行]

妥当性検査

構成 20

ASCII ファイル 45

デフォルト

アダプターの変更 16

オプション 9

モデルの変更 16

デフォルト・オプション 9

電子的に入手、構成プログラムの 2

テンプレート、構成 44

導入 1

構成プログラム 1

情報テーブル 3

手順 4

要件 1

AIX での 4

OS/2 での 5

Windows での 5

## [ナ行]

ナビゲーション・ウィンドウ

概要 13

拡張 16

使用 14

ポップアップ・メニュー 16

メニュー・バー 15

ナビゲート

キーボードで 20

構成プログラムを 19

マウスで 20

入手、構成プログラムの 2

## [ハ行]

フォルダーの定義 14

複数の装置での ASCII ファイル機能の使用 43

変換

バイナリーから ASCII へ 38

ASCII からバイナリーへ 38

cdb ファイルを csf ファイルに 9

csf ファイルを最新リリースに 11

変換 (続き)

ELAN tlx ファイルを MSS V1 R2.2 に 10  
変更

カラー 16

省略時アダプター 16

省略時モデル 16

メッセージ 16

ポップアップ・メニューの表示 16

## [マ行]

マウス、ナビゲートのための使用 20

メッセージ・プロンプトの変更 16

問題の診断 46

## [ヤ行]

要件、導入の 1

## [ラ行]

リスト、複数項目の選択 22

ルーターと構成プログラム間の通信の設定 24

ルーターのセットアップ 24

例、cfgargs ファイルの 27

## A

AIX

構成プログラムの開始 7

NetView/6000 による構成プログラムの開始 7

ASCII 機能

概要 35

作成、単一ファイルの 35

作成、複数の ASCII ファイルの 44

使用、複数の装置での 43

変換、バイナリーから ASCII へ 38

変換、ASCII からバイナリーへ 38

読み取り、単一ファイルの 36

読み取り、複数の ASCII ファイルの 44

ASCII 機能の理解 35

ASCII ファイル

解釈 38

構成テンプレートとして 44

作成 35, 36, 43

使用 35

処理、コマンド行機能を使用した 42

追加、注釈の 36

変換、検索したファイルの ASCII への 43

変換、バイナリーから ASCII へ 38

変換、ASCII からバイナリーへ 38, 43

方法、構成プログラムの妥当性検査の 45

ASCII ファイル (続き)  
読み取り 37, 43

## C

cfgargs ファイル

コマンド 13

config 28

headless 28

-asciiRead 29

-asciiWrite 29

-commandsFrom 29

-createConfiguration 30

-displayMessages 30

-exit 30

-exitOnError 30

-noLogo 30

-open 30

-queryinfo 31

-read 31

-reboot 31

-retrieve 32

-save 32

-send 33

-sendMultiple 33

-storeMessages 33

-timedConfig 34

例 27

config コマンド 27

構文 28

## H

headless コマンド 27

構文 28

## O

OS/2 での構成プログラムの開始 8

## W

Windows での構成プログラムの開始 8







Printed in Japan

GC88-6657-06



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12